

和仏法律学校講義録

著者	富井 政章, 松岡 義正
出版者	和仏法律學校
巻	3-33
ページ	1-67
発行年	1903-04-13
URL	http://hdl.handle.net/10114/5382

和佛法律學校



和佛法律學校講義錄

號九第拾參號

三十五年度 第三學年ノ三十三

明治三十六年四月十三日發行

(明治三十五年十月四日第三部便物認可 每月十一同 日廿五日十五日廿六日廿七日廿八日廿九日廿十日廿十一日廿十二日廿三日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日廿十日廿十一日廿十二)

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3

第三學年第三十三號目次

民法物權(自第七章至第十一章(自一三七)完) 法學博士 富井政章

表紙及目次 六頁

破產法(自五〇〇)

法學士 松岡義正

民事訴訟法(自二九五)

法學士 松岡義正

雜報 ○裏書年月日週記ノ效果○川名講師ノ留學○編入試験問題

090
1902
3-1-33

ムルトキハ其提供ヲ拒絶シテ増價競賣ヲ請求スルコトヲ得ルノデアル、第三取
得者ヨリ提供シタ金額ハ實際不相當デアルカモ知レナイニ由フテ抵當權者ニ於
チ之ヲ拒絶スル權利ナキモノトスルコトノ不當ナルコトハ固ヨリ言フヲ俟タ
ナイコトデアル、固ヨリ拒絶權ハナクテハナラヌ、然レドモ唯無條件ニ拒絶スル
コトヲ得ルモノトスレバ抵當權者ハ少シク意ニ満タザル所アレバ必ズ拒絶ヲ
爲スデアラウ、果シテ然ラバ濫除權ハ有名無實ト爲リテ之ヲ認メタ目的ヲ達シ
ナイ故ニ單純ナル拒絶權ハ之ヲ認メズシテ必ズ増價競賣ヲ請求スベキモノト
シタ、而シテ此請求權ヲ行フニハ種種嚴重ナル條件ヲ定メタル(第三八四條乃
至第三八六條是モ細密ノ手續ニ涉ルコトデアルニ由フテ此切迫シタル最終ノ日
ニ説明スルコトハ略シマス)

第三ハ抵當權者ガ右ニ説明シタ三種ノ書面ヲ受取フタ後一箇月内ニ増價競賣ヲ
請求セザル場合デアル此場合ニハ抵當權者ハ提供ニ應ズル意思ヲ明示シタノ
デハナイガ増價競賣ヲ請求セザル所ヲ以テ觀レバ提供ヲ承諾シタルモノト看
ルガ正當デアル、故ニ法律ハ此ノ如キ期間ヲ越過シタルモノハ暗黙ノ承諾ト看

民 法 物 権

民事訴訟 法

090
1902
3-1-33

ムルトキハ其提供ヲ拒絶シテ増價競賣ヲ請求スルコトヲ得ルノイデアル、第三取
得者ヨリ提供シタ金額ハ實際不相當デアルキモセ知レナイニ由フテ抵當權者ニ於
テ之ヲ拒絶スル權利ナキモノトスルコトノ不當ナルコトハ固ヨリ言フヲ俟タ
ナイコトデアル、固ヨリ拒絶權ハナタヌハナキス、然レドモ唯無條件ニ拒絶ス所
コトヲ得ルモノトスレバ抵當權者ハ少シタ意ニ滿タザル所アレガ必ズ拒絶ヲ
爲スデアラウ、果シテ然ラバ撤除權ハ有名無實ト爲リテ之ヲ認メズシテ必ず増價競賣ヲ
ナイ、故ニ單純ナル拒絶權ハ之ヲ認メズシテ必ず増價競賣ヲ請求スベキモノト
シタ、而シテ此請求權ヲ行フニハ種種嚴重ナル條件ヲ定メテアル第三八四條乃至
第三八六條是モ細密ノ手續ニ涉ルコトデアルニ由フテ此切迫シタル最終ノ日
ニ説明スルコトハ略シマス

第三八抵當權者ガ右ニ説明シタ三種ノ書面ヲ受取ラタ後一箇月内ニ増價競賣ヲ
請求セザル場合ダアル此場合ニハ抵當權者ハ提供ニ應ズル意思ヲ明示シタノ
デハナイガ、増價競賣ヲ請求セザル所ヲ以テ親レバ提供ヲ承諾シタルモノト看
ルガ正當デアル、故ニ法律ハ此ノ如キ期間ヲ越過シタルモノハ暗黙ノ承諾ト看

倣シテ此場合ニハ溢除ガ行ハルモノトシタノデアル(第三八四條第一項)

増價競賣ノ請求トハ債權者ニ於テ第三取得者ガ提供シタル金額ヲ不相當ト認ムル場合ニ其提供ヲ拒絶シテ一層高價ニ其不動產ヲ賣却セシコトヲ要求スル權利ノ行使ヲ謂フモノデアル第三取得者ガ提供シタル金額ガ不相當ニ低キニモ拘ハラズ抵當權者ニ於テ必ズ之ヲ承諾セキバナラニモノトスレバ抵當不動產ノ實價ヲ得ルコト能ハズシテ第三取得者ニ對スル抵當權ノ效力ハ有名無實ト爲ル譯デアル其レ故ニ抵當權者ヲシテ此ノ如キ地位ニ立タシムコトヲ得ザルハ言フマデモナイコトデアリマス併ナガラ又一方ヨリ考フルニ抵當權者ニ於テ第三取得者ノ提供或相當ナル無條件ニテ拒絶スルコトヲ得ルモノトスレバ法律ガ第三者ニ興ヘタ溢除權ハ全ク其效用ヲ爲サザル結果ト爲ル故ニ法律ハ此ニツノ弊害ヲ生ゼシメザル爲メニ抵當權者ニ於テ第三取得者ノ提供ヲ不當ト認ムレバ増價競賣ノ請求ヲ爲スキモノトシタ譯デアリマス増價競賣ノ請求ニ關シテハ更ニ嚴密ナル條件ヲ定メテアリマス其レハ第三百八十四條乃至第三百八十六條ニ掲グアルガ其項目ハ條文ニ譲ルコトトシテ

説明ヲ略シマス此他増價競賣ノ手續ハ明治三十一年法律第十五號競賣法四十條以下ニ規定シテアリマス
第三取得者ガ以上説明シタル條件ニ從フテ債務ノ辨済ヲ爲スコトモナク又溢除ノ手續ヲ爲スコトモナケレバ抵當權者ハ抵當不動產ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得ルノデアル第三百八十八條及シテ其競賣ニ依リテ生ズベキ代價ニ付イテ優先權ヲ行フコトヲ得ルハ當然デアリマス競賣ノ手續ハ競賣法ニ定メテアラ茲ニ説明スル必要ナイト思ヒマス
民法ハ第三百八十九條及ビ第三百八十九條ニ於テ或格段ナル場合ニ關スル規定ヲ設ケテ居マス其レハ建物ノ存スル土地ニ付イテ土地又ハ建物ノミヲ抵當ト爲シタル場合及ビ抵當權設定後抵當地ニ建物ヲ建設シタル場合ニ關スル規定デアル此規定ヲ必要トシタル所以ハ我邦ニ於テハ從來建物ハ土地ノ一部ヲ成スモノト看ズシテ土地トハ別ナル物ト看ル慣例デアル故ニ建物ト土地トガ同一ノ人ニ屬スル場合ニ於テハ各別ニ之ヲ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得ル譯デアル又實際ニモ頻繁ニ行居ル事實デアル然ルニ此場合ニ於テ抵當權ガ實

行セラレテ競賣ト爲フ場合ニハ甚ダ不公平ナル結果ヲ生ズルコト爲ル、即ち土地又ハ建物ヲ競賣ニ付セバ素ト同一ノ人ニ屬セシ土地ト建物トガ各々其所有者ヲ異ニスルコト爲ル而シテ建物ノ所有者ハ初ヨリ其土地ノ上ニ何等ノ權利ヲモ有セザルガ故ニ唯土地ヲ毀損セズシテ其建物ヲ取除ク權利シカナオ即チ最モ多クノ場合ニ於テハ建物ヲ取崩サセバナラヌ結果ト爲ル、此ノ如キハ建物ノ所有者ノ爲メニ甚ダ譖ニ過ギタコトデアルノミナラズ一般經濟上ヨリ考ヘテモ甚ダ宜キヲ失シタ結果デアル、故ニ斯ル場合ニハ抵當權設定者ハ地上權ヲ設定シタルモノト看做スト云フ規定ヲ設ケ、又抵當地ニ建物ヲ築造シタ場合ニハ土地ト共ニ其建物ヲ競賣ニ付シテ優先權ハ土地ノ代價ニ付イテノミ行フコトヲ得ルモノト規定セラレタ譖デアリマス。

競賣ノ性質ニ付イテハ議論アルヤウデアリマスガ、純然タル賣買デナイト思フ、併シ最モ多クノ點ニ於テ賣買ト同一視スベキモノデアル、而シテ別段ノ規定ナキ以上ハ何人ト雖モ競落人ト爲ルコトヲ得ベキ譖デアル、抵當不動產ノ第三取得者ノ如キハ競落人ト爲ルコトニ付イテ最モ正當ノ利益ヲ有スル者ト謂ハ

チバナラヌ、唯第三取得者ハ通常抵當不動產ノ所有權ヲ取得シタ者デアルガ故ニ競賣ノ結果更ニ同一ノ不動產ニ付キ所有權ヲ取得スルト云フコトハ少シタ論理ニ反スル嫌アルニ由フ民法ハ疑議ヲ防グ爲メニ明文ヲ以テ第三取得者ハ競落人ト爲ルコトヲ得ル旨ノ規定シタノデアリマス(第三九〇條)第三取得者ハ抵當不動產ニ付イテ必要費又ハ有益費ヲ支出シタルコトナシトセナイ、其場合ニハ其償還請求權ノ範圍ヲ定ムルコトガ必要デアル、第三百九十一條ハ即チ此事ヲ規定シタモノニアリマス條文ニ掲ゲタルコトノ外別ニ説明ヲ要スルコトハアリマセヌ、本件は前項の後半に於て「抵當不動產ノ所有權ヲ得ル者」の定義が記載されており、本条の「第三取得者」もその範囲に含まれる。競賣代價ヲ配當スルコトニ付イテ多少困難ヲ生ズル場合ガアル、若シ抵當不動產ガ唯一ツデアリ且其代價ヲ以テ債務ヲ全額ヲ辨済スルニ足ルトキハ如何ナル困難ヲモ生ズルコトハナイガ、若シ之ニ反シ一人又ハ數人ノ債權者ガ數箇ノ不動產上ニ抵當權ヲ有スル場合及び抵當不動產ノ競賣代價ヲ以テ一切ノ債務ヲ辨済スルニ足ラザル場合ニハ抵當債權者相互ノ間ニ於テ又抵當權者ト普通一般ノ債權者トノ間ニ於テ衝突ヲ生ズルコトナシトセナイ、故ニ法律ハ此等

細密ナル規定ヲ設ケタ、其レハ第三百九十二條乃至第三百九十四條ノ規定デア
ル、是モ説明ヲ省キテスル事也。但シ本件ノ趣旨、如實外判を以て一例ノ骨
終ニ一言説明スベキコトハ抵當權者正抵當不動產ノ貸借人トノ關係ダアル、質
權ハ其性質債權デハアルガ不動產ヲ目的トスル場合ニ於テ之ヲ登記シタル
トキハ爾後其不動產ニ付イテ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其效力ヲ生ズル
コトト爲ツア居ル(第六〇五條)然レドモ抵當權ノ登記後ニ抵當不動產上ニ質借權
ヲ取得シタル之ヲ登記スルモ抵當權者ニ對シテ其效力ナキヨトハ言フア候タザ
ル所デアル、是ハ一般物權ノ優先的效力トシテ當然ノ事デアル、然ルニ短期ノ質
貸借ハ不動產ノ最ニ有益ナル利殖ノ方法デアル、故ニ縱令抵當權ノ登記後ニ登
記シタルモノト雖モ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得ルモノトスルハ抵
當權者ノ爲メニモ最ニ利益ナル場合ガ多イ、故ニ民法ハ第六百二條ニ定メタル
期間ヲ超エザル質貸借ハ抵當權ノ登記後ニ登記シタルモノト雖モ之ヲ以テ抵
當權者ニ對抗スルコトヲ得ルモノトシタノデアル(第三九五條)

然レドモ此效力ニハ、一ノ制限ガ設ケラレテアル其レハ其貸貸借ガ抵當權者ニ
損害ヲ及ボヌ場合ニハ抵當權者ハ裁判所ニ其解除ヲ請求スルコトヲ得ルモノ
トシタコトデアル、是ハ立法論トシテハ甚ダ宜キヲ得ザル規定ト思ヒマス、タシ
カ議院ニ於テ加ヘラレタ規定デアルト記憶シテ居マスガ此ノ如キ制限ハ甚ダ
漠然タルコトヲ條件トシタルノミデ詰リ抵當權者ノ自由判断ニ委シタモノア
ル、元來第三百九十五條ノ本文ハ單ニ抵當權者ノ利益ヲ保護スル爲メノ規定
デナイン然ルニ右但書ノ如キバ其適用ヲ有名無實ナラジムル制限ト謂ハズバナ
ラユ恩讐ヘ過文ニシテ或威々威々脅迫等外に抵當權者ニ機知そぐ趣合アリ其
等全一國ノ計略大ニシ共ニ中権ニシテ「事」等ノ事端生ム事ハ勿論然リテ
第三節 抵當權ノ消滅
二四七中領士モハサクナシ新規置ヒ

ル、他に擔保権ニ共通ナルモノハ其擔保オル債権ノ消滅抵當權ノ拋棄目的物ノ滅失及び混同等デアリマス、又抵當權ノ特別ナル消滅ノ原因ハ前ニモ説明シタ所ノ取得代價ノ辨済済除及ビ競賣ノ三デアル尙ホ民法ハ時效ニ關シヲ特別

ナル規定ヲ設ケテ居テ、所持セラレタル事由ノ三者、其固ヨリ有効ナル時效ニ關する。先づ抵當權ハ債務者及び抵當權設定者ニ對シテハ其擔保スル債權ト同時ニ非ザレバ時效ニ因ツテ消滅セズトアル(第三九六條)。其理由カ蓋シ抵當權ハ從属的權利デアルガ故ニ、主タル債權ト離レテ先ニ時效ニ罹ルコトヲ得ナ。イ即テ主タル債權ガ第百四十七條ニ掲ダタル事由ノ一ニ因リ中斷セラルトキハ抵當權ハ維合一同ノ行使ナキモ共ニ中斷セラレタルモノト看做サルノデアル。然レドモ此原則ハ條文ニモアル如ク、債務者及び抵當權設定者ニ對シテノ事デアラ。其以外ノ者ガ自己ノ身ニ生ジタル原始的取得方法ニ依リ、抵當不動產上ニ權利ヲ取得スルコトハ固ヨリ妨グザル所デアル。即チ抵當不動產ヲ占有スル者ガアラベ占有ガ取得時效ニ必要ナル條件ヲ具フル以上ハ之ヲ保護シテ法律上ノ效果ヲ生ゼシヌザル理由ハナイ。故ニ斯ル場合ニハ占有者ハ取得時效ニ因ツテ完全ナル所有權ヲ取得スルト同時ニ抵當權ハ消滅スルモノトシテアル(第三九七條)。地上權又ハ永小作權ヲ抵當權ノ目的ト爲ス者ハ其權利ヲ拋棄スレバ抵當權モ亦其目的ヲ缺クニ因ツテ當然消滅スルモノノ如クデアルガ一旦他人ガ正當ニ取

得シタル權利ヲ害スル如キ結果ヲ生ズルコトアツハナラス。故ニ斯ル場合ニ於テハ地上權又ハ永小作權ノ拋棄ハ固ヨリ有效デアル。何人ト雖モ公益ニ關係ナキ限ハ如何ナル財產權ヲ拋棄スルモ固ヨリ妨グザル所デアル。然レドモ其拋棄ハ第三者ノ既得權ヲ害スベキモノデナ。イ故ニ抵當權者ニ損害ヲ生ゼザル範圍内ニ於テ其效力ヲ生ズルモノトセ子バナラス。即チ抵當權者ニ對シテハ恰モ拋棄ヲ爲サザリシ如ク其拋棄ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ザルモノト規定セラレタ譯デアリマス(第三九八條)

民法物權(自第七章終)

民法物權 抵當權ノ消滅

民法物權(自第十一章)卷

物の所有權を主とし、其の保護と關係する事項を總括して之を定めたものであつて、本稿は、此の「物の所有權」の一部である「物の轉讓」の問題を論じたものである。即ち、物の轉讓の方法、其の効力、轉讓の登記の問題等を論じたものである。本稿は、物の轉讓の問題を主として、その他の問題も併せて論じたものである。即ち、物の轉讓の問題を主として、その他の問題も併せて論じたものである。

民法物權(自第十一章)卷

(三十五年度講義錄)

法學博士 富井政章 講述

民法物權(自第十一章)卷

(至第十七章)

和佛法律學校發行

第三章 不動產の所有權

第四章 不動產の轉讓

第五章 不動產の登記

第六章 不動產の税金

民法物權學對證言

卷之三

(自第十七章至第二十章)

法律出版社 編著

(二十二年九月新發行)

民法物權(自第十七章)目次

緒論	1
第七章 留置權	10
第一節 留置權ノ本義及要素	10
第二節 留置權ノ效力	11
第三節 留置權ノ消滅	13
第八章 先取特權	16
第一節 總則	16
第二節 先取特權ノ種類	16
第一款 一般ノ先取特權	17
第二款 動產ノ先取特權	17
第三款 不動產ノ先取特權	18
第三節 先取特權ノ順位	18

第四節 先取特權ノ效力	五四
第九章 質權	六三
第一節 總則	六六
第二款 質權ノ性質	六七
第三款 質權ノ設定	七〇
第四款 質權ノ效力	七三
第五款 質權ノ消滅	八四
第二節 動產質	九一
第三節 不動產質	九六
第四節 櫄利質	一〇〇
第十章 抵當權	一一三
第一節 總則	一一四
第二節 抵當權ノ效力	一一九

第一款 抵當權ノ順位	一一九
第二款 抵當權ニ依フテ擔保セラルヘキ債權	一二〇
第三款 抵當權ノ處分	一二一
第四款 第三取得者ニ關スル效力	一二七
第三節 抵當權ノ消滅	一四三

民法物權(自第十七章)目次終

卷之三

三德、無能者、皆歸一焉。四
德、無知者、皆歸一焉。五
德、無惡者、皆歸一焉。六
德、無惡者、皆歸一焉。

1000

タル判事ニ依リテ爲サレタル旨ノ書面的證據トシヲ缺クヘカラサルモノナレ

合ニ主任官ノ報告ヲ聽き職權ヲ以テ又ハ利害關係人殊ニ帳簿其他ノ書類検閲ニ依リ事情ヲ詳悉シタル管財人ノ申立ニ基キ決定ヲ以テ慎重ニ之ヲ認定スルコトヲ得セシムルノ法意ナリ佛蘭西商法ニ於テハ支拂停止ノ日時ヲ認定スル裁判所ノ職權ニ關シ期間上ノ制限ヲ設ケナリシヲ以テ破産ノ宣告ヨリ非常ニ遡リタル日時ヲ支拂停止ノ日時ト定メ其間ニ於ケル大多數ノ取引ヲ無効トシ又ハ取消スコトヲ得ヘキモノト爲スノ結果大ニ取引ノ安全ヲ害スルニ至ル是ヲ以テ白耳義商法第四四二條第三項伊太利商法第七〇四條第三項等ハ破産宣告ノ時期ヨリ遡リテ一定ノ期間前ニ支拂停止ノ日時ヲ認定セシムアルノ制限ヲ設ケタリ又佛蘭西商法第四一條白耳義商法第四四二條第四項等ハ破産ノ宣告ニ於テ若クハ後日ノ裁判ヲ以テ支拂停止ノ日時ヲ定メサルトキハ法律上ノ擬制トシテ事實上破産宣告ト支拂停止ト其日時ヲ異ニスルモ前者ノ日時ヲ以テ後者ノ日時ト看做シタリ但死亡シタル債務者ニ對スル破産宣告ニ於テ斯ル法則ヲ認ムルトキハ縱令法律上ノ擬制ナリト雖モ破産ノ宣告前ニ既ニ死亡シタル者ヲ破産宣告ノ日時ニ於テ支拂停止シタリト云フハ失當ナルヲ以テ

白耳義商法第四四二條ノ如キハ死亡ノ日時ヲ支拂停止ノ日時ト爲シ佛蘭西商法ニ於テハ法文ナキモ學說上同一ノ論決ヲ認メタリ我破産法ニ於テハ支拂停止ノ認定ニ關スル期間上ノ制限ヲ設ケヌ又支拂停止ノ日時ニ於ケル法律上ノ擬制ヲ設ケサルハ立法上ノ缺點ナリ蓋シ前者ハ取引ノ安寧ヲ保ツカ爲メニ必要ニシテ又後者ハ事實上確定スルコトヲ得サル場合アルヘキ支拂停止ノ日時ノ確定ヲ破産裁判所ニ強ユルニ至ルヲ以テナリ獨逸破産法ハ佛蘭西法系諸國ノ破産法カ支拂停止ノ日時ニ重キヲ置キ之ヲ破産ノ宣告ニ記載セシムルト同シク破産手續開始決定ヲ爲シタル日時ニ重キヲ置キ之ヲ該決定ニ記載セシメタリ蓋シ同法ハ破産手續開始決定ニ重要ナル種種ノ效力ヲ結付ケタルヲ以テナリ而シテ該日時ノ記載ヲ缺クトキハ決定ヲ爲シタル日ノ正午ヲ以テ破産手續開始ノ時ト看做シタリ(獨逸破産法第一〇八條)二
破産裁判所ハ破産宣告ノ申立ヲ訴訟上不適當ト認メ又ハ破産宣告ノ原因ヲ缺クヲ以テ理由ナシト認メタルトキハ決定ノ形式ヲ以テ該申立ヲ却下ス我破産法ハ此點ニ關シ何等ノ明文ナシト雖モ之カ爲メニ申立却下ノ裁判ヲ爲スコト

ヲ得ナルモノト論決スヘカラス不適法又ハ理由ナシトノ心證ヲ得タル場合ニ於テ申立ヲ却下スルハ裁判所ノ當然ノ職務ナリ法律ニ明文ナキハ明白ナル事項ナルカ爲メナリ寧ロ明文ヲ設タルハ不必要ナルカ爲メナリ故ニ佛蘭西ニ於テハ明文ナシト雖モ申立却下ノ裁判ヲ爲スコトニ關シテハ學說上疑ナク獨逸ニ於テハ嘗テ破産法草案第百八條第一項ニ裁判所カ申立ノ原因ナシト思惟シタルトキハ申立ヲ却下スベキ旨ノ明文ヲ設ケタルモ其後這ハ當然ニシテ之カ爲メニ明文ヲ置クハ不必要トシテ削除セラレタルニ依ルモ尙ホ明確ナリ而シテ申立却下ノ裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ民事訴訟法第七十二條ノ準用ニ依リ手續費用ヲ申立人カ負擔スルヤ當然ナリ之ニ反シ破産宣告ヲ爲シタル場合ニ於テハ開始手續費用ノ一部トシテ財團費用ニ屬シ未タ申立人ヨリ支拂ハサルモノニ限リ破産手續費用ノ一部トシテ財團費用ニ屬シ申立人カ適當ニ立替ヘタル裁判上及ヒ裁判外ノ費用ノ賠償ハ不當利得ヲ許サナルノ法則ニ基キテ破産財團上ノ債務トシテ申立人カ請求スルヨコトヲ得ルヤ言ヲ埃及(第一〇三二條說明参照)。

(二) 破産宣告並ニ申立ヲ却下ニ伴フ諸手續ノ破産手續開始決定ハ特定ハ當事者ニ對シテハ口頭辯論ヲ經ルト否トニ從ヒ之ヲ言渡シ又ハ之ヲ送達ス民事訴訟法第二四五條第二三三條第二三四條準用商法施行條例第二〇條第二四條商法施行法第一四七條該決定ハ言渡又ハ送達ニ因リ外部ニ對シ成立ノ效力ヲ生シ爾後裁判官ハ之ヲ變更スルヨトヲ得ス獨逸破産法ニ於テハ「送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス」新破産法第七三條第二項舊破産法第六六條第二項ノ明文アルヨリシテ又獨逸新破産法第七十三條第一項舊破産法第六六條第一項ニ規定シタル口頭辯論ハ民事訴訟法ニ所謂口頭辯論ニ非ストノ理由ヲ以テ破産手續開始決定ハ縦令口頭辯論ニ基クモノト雖モ之ヲ言渡スコトヲ要セス又縦令之ヲ言渡シタリト雖モ職權ヲ以テ之ヲ利害關係人ニ送達セサルヘカラス而シテ該送達ハ利害關係人ニ對スル裁判所ノ通知ナリト論スル學說多數ヲ占ム「ソキフニルド」氏ハ我民事訴訟法第二百四十五條ニ該當スル獨逸新民事訴訟法第三百二十九條同舊民事訴訟法第二百九十四條ノ準用ニ依リ口頭辯論ニ基ク破産手續開始決定ハ之ヲ言渡スヘキモノト曰ヘリ隨テ裁判ハ其送達若クハ言渡ニ依リ外部

ニ對シテ成立ストノ原因ヲ適用シ破産手續開始決定ニ於テ否認シ該決定ハ裁判官ノ署名ニ因リテ完成ス(ゾキフエルド民ハ口頭辯論ニ基ク開始決定ハ言渡ニ因リテ完成スト曰ヘリ而シテ決定ノ完成ハ決定ノ變更取消ヲ許サスト同一ノ意義ヲ有スルモノニ非ス裁判官ハ其完成シタル決定ト雖モ裁判所内ニ在ル間ハ之ヲ撤回シ若クハ之ヲ變更スルコトヲ得ヘシトノ學說多シ(開始定定ニ記載スヘキ開始ノ日時ハ即チ此完成ノ日附ナリ)不定多數ハ當事者ニ對シテハ破産手續開始決定ヲ公告ス是レ該決定ハ債務者ノ財産ニ關スル處分能力ニ重大ナル制限ヲ來スヲ以テ第三者ニ之ヲ警戒スルカ爲メニ又總テノ債權者ニ對シ重大ナル關係ヲ來スヲ以テ之ヲ告知スルカ爲メニ其他破産手續ハ多數ノ利害關係者ニ行フ一ノ強制執行ナルヲ以テ公告ノ方法ニ因リ開始決定ノ存在ヲ告知セシムルカ爲メナリ而シテ公告ノ責任者公告書類正本ナルヤ否ヤ公告期間等ニ關シテハ法律上何等ノ明文ナシト雖モ(第九百八十一條ハ單ニ公告ノ方法ヲ規定シタルノリミ公告ハ裁判所ノ職權ニ屬シテ裁判所書記カ之ヲ取扱ヒ公告ノ材料及ヒ其期間等ハ法律カ之ヲ公告ノ精神ニ適スヘキ裁判所ノ判断ニ委シ

タルモナト信ス(民事訴訟法第一五七條準用)獨逸破產法第七六條第一二二條英吉利破產法第二〇條白耳義商法第四七二條和蘭商法第七九三條佛蘭西商法第四四二條其他裁判所所在ノ知レタル債權者及ヒ破產者ノ債務者ニ對シテハ特ニ公告ノ外ニ送達ヲ爲シヲ適當トス第一〇〇六條第一項第一〇二三條第三項獨逸破產法第一二一條第三項公告ノ欠缺ハ破產手續開始決定ノ效力ニ影響スル所ガシ唯之ヲ缺キタルカ爲メニ破產者ト取引ヲ爲シ損害ヲ受ケタル者カ公告ノ責任者ニ對シ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルノミリオンガシ民ハ後日支拂停止ノ日時ヲ定メタル決定ノ公告責任者ハ管財人ナリト主張シ以テ管財人カ之ヲ公告セシムトキハ賠償責任ヲ負フト論決シタレトモ道バ我商法ノ解釋トシテ採用スヘキモノニ非ス支拂停止ノ日時ヲ定メタル決定ハ破產手續開始決定ノ一部分ナルヲ以テ裁判所書記カ公告ノ責任者タルコト疑ナシ破產手續開始決定ハ之ヲ裁判所書記カ即時ニ検事ニ送致セサルベカラス其送致スヘキ書類ハ決定ノ正本勝本若クハ抄本タリ是レ検事ヲシテ破產ニ際シ刑事上ノ行爲アリヤ否セヌ検査スルノ職分ヲ實行セシメンカ爲メナリ(第九八〇

條末項、第九八四條佛蘭西商法第四五九條、
破産手續開始決定ニ對シテハ唯破産者ノミカ即時抗告ヲ爲スコトヲ得商法施行法第一三八條獨逸破産法第一〇九條我破産法ハ獨逸破産法ト同シク決定ヲ以テ破産宣告ノ形式ト爲シタルヲ以テ又破産關係ハ之ヲ急速ニ確定スルノ必要アルヲ以テ即時抗告ヲ不服申立方法ト定メタルナリ商法施行條例第二四條、第二五條、商法施行法第一四七條、民事訴訟法第四六二條第四六六條即時抗告期間、ハ送達ヲ受ケタル日ノ翌日又ハ裁判ノ言渡ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ起算スル商法施行條例第二四條、商法施行法第一四七條、民事訴訟法第四六六條第二項是レ不服申立權者ハ此時期ヨリシテ適當ニ其權利ヲ行使スルコトヲ得レハナリ獨逸破産法第七六條ハ破産手續開始決定ノ公告即チ該決定ニ關スル記事ヲ掲ケタル新聞紙ノ第一回ノ刊行後二日ノ經過ヨリ即時抗告期間ノ進行ヲ始ムルモノト規定シタリ是レ獨逸破産法カ該決定ノ言渡ヲ要件トセス又公告ヲ以テ總利害關係人ニ對スル送達ト看做シタル特別ノ法意ニ基ケリ破産手續開始決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スノ權ヲ有スル者ハ唯破産者ノミ我破産法ハ此點ニ

關シ明文ヲ缺クト雖モ商法施行條例第二十四條ニ於テ即時抗告ノ期間ハ送達ヲ受ケタル日ノ翌日又ハ裁判ノ言渡ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ起算シ且裁判ノ送達及ヒ言渡ヲ受ケル者ハ通常當事者タル民事訴訟法第二四五條第二三五條、第一三八條法理ヨリ推究シハ破産當事者が不服申立權者トシテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルヤ疑ヲ容レス而シテ破産ノ宣告ハ債權者總員ノ利益ノ爲メニシタルモノナルヲ以テ當事者タル債權者即チ破産宣告ヲ求ム申立ヲ爲シタル者ハ其申立ニ基キテ爲シタル破産宣告ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ツルヤ言テ埃及故ニ唯破産當事者タル破産者ノミカ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルノミト論決スルヲ當然トス獨逸破産法第一〇九條ハ破産手續開始決定ガ債務者ノ申立ニ因ルト債權者ノ申立ニ因ルトニ拘ハズ債權者總員ノ利益ノ爲メニ爲シタルモノナルヲ以テ一債權者ガ強制執行ヲ爲スコトヲ得ルト云フカ如キ特別固有ノ利益ノ爲メニ該決定ヲ即時抗告ノ目的ト爲スコトヲ得ストノ理由ニテ即時抗告ヲ破産者ニ限定シタルニ似タル債務者ハ其申立ニ因リテ下サシタル破産ノ宣告ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤニ關シテハ學說

二派ニ歧レタリ「フ・チング」ザ・ワイ氏等ハスル決定ハ債務者其人ノ意思ニ適シタルモノナレハ不服ヲ申立フヘキ餘地ナシ故ニ債務者カ即時抗告ヲ以テ攻撃スヘキ決定ハ債権者ノ申立ニ因リテ爲シタル破産手續開始決定タルコトア前提要件トストノ理由ヲ以テ消極的ニ論決シヨーレビアキフェルド氏ハ債務者ハ斯ル決定ヲ下ナレタル後ト雖モ熟慮ノ未裁判所ノ認定カ不法ナリト信シタル場合ニハ抗告ヲ以テ錯誤ヲ正シ新事實及ヒ新證據方法ヲ提出スルコトヲ得ナルノ理ナク又破産裁判所カ債務者ノ申立ノ取下ヲ看過シ裁判スルコトアルヲ以テ債務者ニ不服申立ヲ許サナルノ理ナシト主張シ積極的ニ論決シタリ我破産法ノ解釋トシヲハ後説ヲ正當ト認ム

抗告裁判所ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ即時抗告ノ當否ヲ裁判ス商法施行條例第二五條商法施行法第一四七條而シテ抗告事件調査ノ結果トシヲ即時抗告ヲ理由アリト認メ前審ニ於テ爲シタル破産宣告ノ決定ヲ廢棄シ破産宣告ノ申立ヲ却下ストノ裁判ヲ爲シタルトキハ口頭辯論ニ基キタルト否トニ從ヒ之ヲ言渡シ又ハ之ヲ送達スルノ外民事訴訟法第二四五條獨逸破産法第一二六條第

一項英吉利破産法第三五條參照ニ於テ明言シタルカ如ク其確定後即チ再抗告ノ期間ヲ徒過シタルカ若クハ再抗告棄却ノ裁判アリタル場合ニ於テ之ヲ公告シ總利害關係人ニ知ラシムルヲ必要トスホトナレハ斯ル裁判ノ確定ニ因リ破產的差押權ヲ不成立ト爲スヲ以テ債務者ノ爲ミニハ財產ノ管理處分權ヲ喪失セサル旨ヲ公示シ名譽ヲ回復シ取引ノ安全ヲ確保シ債権者ノ爲ミニハ破產的效果ナキヲ以テ各別のニ行動スルコトヲ妨ケラレサル旨ヲ公示シ第三者ニハ行爲ノ取消若クハ其效力ナキ旨ヲ公示スルコトヲ必要ト爲セハナリ而シテ此公告手續ハ抗告裁判所書記又ハ民事訴訟法第四百六十四條ノ場合ニ於テハ前審裁判所書記カ之ヲ爲スモノタリ破産ノ宣告ト同時にシタル保全處分ヲ取消スヘキハ當然ナリ管財人ハ破産手續開始決定ヲ取消ス裁判ノ確定ニ至ルマテハ破産財團ヲ以テ破産財團上ノ請求權ニ付キ辨濟ヲ爲シ又係爭破產財團上ノ請求權ノ爲ミニ擔保ヲ供スルコトヲ得何トナレハ破産債権者團體ハスル時期マテ有效ニ成立スルヲ以テ該團體ノ義務カ尙ホ成立スト謂ハサルヲ得ナリハナリ佛蘭西商法及ヒ我破産法カ破産ノ宣告ヲ取消シタル決定ヲ公告スヘキ

旨ノ明文ヲ缺クハ立法上失當ナリ。
破産宣告ノ申立却下ノ決定亦破産宣告ノ決定ト同一理由ニ基キ口頭辯論ニ基
キタル場合ニ於テ之ヲ言渡シ反對ノ場合ニ於テ申立ヲ爲シタル債務者又ハ債
權者ニ送達ス(商法施行條例第二〇條、第二四條、商法施行法第一四七條、民事訴訟
法第二四五條準用決定カ當事者双方ノ利害ニ關係スルトキハ之ヲ當事者雙方
ニ送達スルハ當然ナレトモ申立ノ却下決定ノ如キ唯申立者ノ利害ニ關係スル
モノハ之ヲ申立者ニ送達スルノミ獨逸破産法ニ於テハ債務者ヲ審訊シタルト
キハ之ニ申立却下ノ決定ヲ送達スルコトヲ要ストノ學說多數ヲ占ム(ゾキフエ
ルド民ハ反對ニ論決シタリ)是レ債務者カ說明ヲ要求スルコトヲ得ル權能範圍
ノ安全ヲ保ツカ爲メナリ我破産法ニ於テモ亦然ラン破産宣告ノ申立ヲ爲シタ
ル債務者若クハ債務者ハ其申立却下ノ決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得商
法施行法第一三八條第二項獨逸破産法第一一〇九條民事訴訟法第五五八條其期
間ハ七日ニシテ送達ヲ受ケタル日ノ翌日又ハ裁判ノ言渡ヲ受ケタル日ノ翌日
ヨリ起算スルコト前述ノ如シ(商法施行條例第二四條、第二五條、商法施行法第一

第二節 破産債權及ヒ破產財團ノ確定手續

四七條抗告裁判所カ抗告ヲ適法ニシテ且理由アリト認メタルトキハ前著ノ裁
判ヲ廢棄シテ自ラ破産手續開始ノ裁判ヲ爲スコトヲ得或ハ不服ヲ申立アラレ
タル裁判所ニ委任シテ裁判ヲ爲サシムルコトヲ得(民事訴訟法第四六四條債務
者ハ斯ノ抗告裁判所ノ裁判ニ對シ再抗告ヲ爲スコトヲ得)

第一款 破産債權ノ確定手續

破産財團ニ屬スル債務者ノ財產ハ其之ニ對スル破産ノ宣告ニ因リ破産手續ニ加入スルヲコトヲ得ヘキ債權者ノ爲メニ差押ヘラレ換價セラレ且破産法ニ從ヒテ配當セラル而シテ破産手續開始ノ當時ニ於テハ未タ破産手續ニ加入スルコトヲ得又ハ之ヲ欲スル債權者カ確定セサルヲ以テ破産手續之進行中ニ於テ之ヲ確定セサルヘカラス貸借表ハ破産債權ヲ表明スト雖モ唯之ノミニ因リ各破産債權カ正當ニ成立シタルモノト認ムルコトヲ得ス(破産者ノ財產ニ關シテ亦然リ)蓋シ破産者ノ作成シタル貸借表若クハ管財人ノ作成シタル貸借表ノ材料(殊ニ商業帳簿ニハ錯誤若クハ故意ニ因リ既ニ消滅シタル債權、虛偽ノ債權、過額ノ債權其他取消スコトヲ得ヘク解除スルコトヲ得ヘタ又ハ無効タルヘキ法律關係ニ基ク權利ヲ記載スルコトアレハナリ)

破産手續開始決定ハ前述シタルカ如ク其當時未確定ナル債權者一般ノ爲メニ破産財團ヲ保全スル執行名義ニ外ナラサルヲ以テ破産債權者カ破産財團ニ付キ平等的滿足ヲ享有セント欲シハ先ツ其債權ヲ確定シテ破産財團ノ配當ニ加ハルヘキ特別ノ執行名義ヲ有セサルヘカラス不當ナル破産債權ヲ破産手續ニ

主張スルコトヲ得セシメ不當ナル債權者ニ破産債權者タル行動ヲ認容スルハ法律ノ許ス所ニ非ス債務者ノ有スル財產ト負ビタル債務トヲ正確ニ認識スルニ非スンハ適當ニ破産手續ヲ進行スルコトヲ得ス故ニ管財人ハ財產目錄ヲ調製シテ債務者ノ財產ヲ正確ニ認識セシメ又債權調査會ヲ以テ債務者ノ債務ヲ正當ニ認識セシムルコトヲ要ス是以テ破産手續ノ開始及ビ其終局ノ中間テ於テ破産財團及ヒ破産債權ノ確定ニ關スル手續アリ(是等手續、管財人等の債權者ハ其債權確定ノ爲メニ之ヲ届出ツヘキコトヲ催告セラル届出ヲ爲サヌル債權ハ破産手續ニ於テ尊重セラル所ト爲テス届出ヲ爲シタル債權ハ債權調査會ニ於テ管財人及ヒ他ノ債權者カ調査シ異議ナキ場合ニ確定シ異議アリタル債權ハ之ニ反シ異議ヲ排斥シタル債權者ニ利益ナル裁判ニ因リテ確定スル順位ノ確定ニ關シテ亦然リ届出ヲ爲シタル優先權カ債權調査會ニ於テ管財人及ヒ他債權者ヨリ承認セサルタルモハド爲テ反對人場合ニ於テハ異議ヲ排斥シタル債權者ニ利益ナル裁判ニ因リテ優先權ヲ以テ擔保ビテレタルモノハド爲テ此債權及ヒ職位

ノ確定ニ關スル裁判ハ併レモ通常民事訴訟手續ニ俟ハ力之ヲ爲ス而シテ舊思
想ノ破産法ハ債権ノ確定及び順位ノ確定列記證以方辯論セシム外リ問題モ無
思想ノ破産法ハ此兩者ヲ併合シ方辯論セシム所ニトテ欲シ外カ是レ費用勞力
時間ヲ省略スルハ法意ニ外ナリ不當也又破産手續ノ實質上強調其相違
以上ノ觀念ニ從ハ破産債権確定手續ノ届出手續調査手續其他異議交渉
斥及ヒ其認可手續狹義ノ確定手續ノ三者ト爲不可ト考得而シテ破産手續大以
テ民事訴訟ノ一種ト認メカラ學者ハ狹義ノ確定手續ニ民事訴訟ノ手續ヲ認
届出手續及ヒ調査手續ニ之ヲ認メカラシ破産裁判所ノ行政的行動ト認メタ
リ然レモ届出手續及ヒ調査手續ナクシテ獨リ係争債権及ヒ順位ノ裁判手續ノ存
シ能フ所ニ非ナルヲ以テ彼此性質大異ニスト云フハ正當ノ見解ニ非ス破産債
権ノ確定手續ハ其全體ニ於テ民事訴訟ノ性質ヲ有スバモノナリ左ニ届出手續
調査及ヒ承認手續並ニ狹義ノ確定手續ヲ略述スヘシ

(A) 届出手續 届出手續ハ債権ノ届出及ヒ債権表ノ調製ノ二者ヨリ成ル管事
人及ヒ各破産債権者カ破産債権ノ調査スルニ當リテハ互ニ之ヲ知テサルヘカ

ラス届出手續ハ此立法上ノ目的ヲ達スルカ爲メニ規定セラレタルモノナリ
(一) 債権人届出 各債権者ハ破産宣告ノ公告ニ因リ債務者ニ對スル破産手續
開始ノ存在ヲ認識スルコトヲ得ヘキカ故ニ法律ハ該公告ニ因リ總破産債権者
カ破産宣告ノ決定中ニ定メラレタル期間内ニ於テ主任官ニ債権ノ届出ヲ爲ス
ヘキ催告ヲ受ケタルモノト規定シタリ(第九八〇條第五號獨逸破産法第一一〇
條第一一一條)
債権ハ届出ハ其訴ニ非スシテ却テ破産手續ニ加入スルコトヲ欲スル意思表示
タリ此意思ハ破産主任官ニ對シテ之ヲ表示ス是レ主任官ハ破産手續ノ指揮及
ヒ監督者タルノミナラス届出ト共ニ重要ナル書類ヲ交付スルコトアルカ爲メ
ニ届出人ノ安全ヲ確保スルノ法意ナリ佛蘭西商法ハ裁判所書記若クハ管財人
ニ又獨逸破産法ハ破産裁判所ニ對シ届出ヲ爲ス旨ヲ規定シタリ(第一〇二三條
第一項上段佛蘭西商法第四九一條第六〇三條獨逸破産法第一三九條)
届出ノ方法ハ各破産債権者カ本人ニテ或ハ代人ニテ口頭又ハ書面ヲ以テ(民事
訴訟法第一三五條参考)債権ノ原因金額優先権ノ外特ニ法文ナキモ當然債権者

ノ氏名、職業、住所等ヲ明示シ且證據書類若クハ其原本ヲ添附シテ之ヲ爲スニ在
リ債権ノ原因ハ民事訴訟法第百九十九條ニ規定シタル請求ノ原因ヲ指示シ請求
ノ金額ハ我帝國ノ貨幣ヲ以テ之ヲ表示シ優先権ハ債権ヲ優先権ヲ以テ擔保セ
ラレタルモノトシテ取扱ハルヘキ旨ノ要求ノ爲メニ之ヲ表示ス(獨逸破産法第
一三九條、第六九條、第六一條第一項乃至第五項又證據書類添附ハ一ノ訓示的立
法ニ外ナラサルヲ以テ之ヲ受クルモ爲メニ届出ノ無效ヲ來スコトナク又爾後
證書ノ使用ヲ妨クルモノニ非ス代人タルニハ辯護士タルコトヲ要セス(獨逸破
産法ハ區裁判所カ破産裁判所ナルヲ以テ届出ノ代入人カ辯護士タルコトヲ要セ
サルハ疑ナシ我商法及ヒ裁判所構成法第二十八條ハ地方裁判所ヲ以テ破産裁
判所ト爲シタルヲ以テ民事訴訟法第六十三條ノ準用ニ依リ理論上辯護士ニ非
スンハ届出ヲ爲スコトヲ得スト謂ハザルヲ得サルニ至ル然レトニ届出ノ如キ
簡單ナル訴訟行爲ハ辯護士タルコトヲ要スト爲スハ鄭重ニ失スト認ムルヲ以
テ斯ル論決ヲ爲シタリ(代入ノ委任ノ欠缺ノ有無ハ裁判所カ職權ヲ以テ之ヲ調
査シ(民事訴訟法第七〇條)且其追完ヲ許スコトヲ得届出ノ變更殊ニ請求金額ノ

増加他ノ原因若クハ新ナル優先権ノ表示等ハ新届出トシテ之ヲ取扱フ(獨逸破
産法第一四二條第二項ヤ當然ナリ但書面ニテ届出ヲ爲スニハ管財人ニ其使用
ノ必要上交付スルカ爲メニ別ニ原本ヲ差出シ又口頭ニテ届出ヲ爲ストキハ裁
判所書記カ調書ノ原本ヲ調製シ之ヲ管財人ニ交付スヘキモノト信ス(獨逸破産
法第一三九條)(我商法第一〇二三條第一項下段、第一〇二四條第二項、佛蘭西商法
第四九一條、千八百八十九年三月四日法律商事非讼事件印紙法第一條第三條届
出カ適法ナラサルトキハ主任官カ命令ヲ以テ之ヲ却下ス其命令ニ對シテハ破
產裁判所ニ即時抗告ヲ爲スコトヲ得(第九八三條))
届出ノ期間ハ破産ノ宣告決定日ニ於テ之ヲ定ム其期間ハ短タトモ三箇月長タ
トモ六箇月タリ但外國居住ノ債権者ニ對シテハ其距離ノ遠近ニ從ヒ届出ニ付
キ特別ノ期間ヲ設クはレ然ラスンハ難ラニ責ムルニ至ルヘケレハナリ此期
間ノ起算點ハ我商法ニ於テ明文ナシ佛蘭西商法(第四九二條)ハ新聞ニ廣告ヲ爲
シタル日ヨリ又獨逸破産法第七六條ハ公告カ其效力ヲ生シタル日ヨリ期間ヲ
進行スト規定シタリ予輩ハ我破産法ノ解釋トシテ公告ノ日ヨリ起算スヘキモ

ノト言ス蓋シ破産宣告ノ公告以外ニ於テ届出期間ヲ起算點ヲ定ムルトキハ破産債権者ノ多クノ破産宣告ノ公告ニ依リ其存在ヲ認識シ得ヘキヲ以テ届出ノ全期間ヲ利用スルコトヲ得ナルニ至ラン又破産宣告ノ公告以後ニ於テ届出期間ノ起算點ヲ定ムルトキハ故ナク破産手續ノ進行ヲ遲延スヘキヲ以テナリ破産宣告ノ決定ニ於テ定マラレタル届出期間カ短キニ失シ又ハ長キニ失シタルトキハ債権者管財人及ヒ各破産債権者ハ抗告ヲ以テ之ヲ變更セシムルコトヲ得商法施行法第一三八條第二項獨逸破産法第一三條届出ノ期間ハ一ノ不變期間ニ非ス故ニ(1)破産宣告以後届出ノ期間ノ開始前ニ爲シタル届出ハ其期間内ニ爲シタルモノト同シタ有效タリ(破産ノ宣告ニ因リ届出ノ期間カ定メラレタルヲ以テ等ノ害毒ナケレハナリ)但破産宣告以前ノ届出ハ縱令其債権者カ既ニ破産ノ宣告アリタル旨ヲ誤信シテ善意ニテ届出タル場合ト雖モ無效タリ蓋シ届出即チ破産手續ニ加入スルコトヲ欲スルノ意思表示ハ破産手續ノ開始ヲ前提トスルヤ當然ナレハナリ(2)届出期間ノ懈怠ニ對スル原狀回復ナシ(民事訴訟法第一七四條又届出期間ハ裁判所ガ仲縮スルコトヲ得民事訴訟訴訟法

第一七〇條其他届出期間ハ其經過後債権ノ届出ヲ許ナサル旨ノ除外期間ニ非ス債権者ハ爾後有效ニ其債権ヲ届出フルコトヲ得ヘシ蓋シ届出期間ノ懈怠ハ權利ノ拋棄又ハ其剥奪ニ非ザレハナリ唯懈怠アルカ爲メニ其責ニ任シテ破産手續ニ加入スルコトヲ得ヘキノミ是ヲ以テ届出期間經過後ニ於テ届出ヲ爲シタル債権者ハ其届出カ債権調査會開會ノ前又ハ其後ニ於テ爲シタルカノ區別ヲ問フコトナク届出當時ニ於ケル破産手續進行ノ状態ニ拘束セラレ又届出期間經過後ノ届出ニ因リテ特別ニ生シタル費用ヲ負擔スルノ損害ヲ受クルノミ故ニ調査會開會前ニ届出タル場合ニ於テ實際上即時ノ調査ヲ爲スコトヲ得ナルカ若クハ之ヲ得スコトヲ得ルモ下調査ヲ爲スノ必要アルカ故ニ管財人若クハ破産債権者カ調査會ニ於ケル即時調査ニ付キ異議ヲ申立タルトキハ債権者ハ自己ノ爲メニ開クヘキ新調査會ニ關スル費用ヲ負擔セサルヘカラス新調査會ノ期日ハ商法第九百八十一條ニ基キテ公告スルコトヲ要スルヲ當然ナリ又届出以後ハ自己ノ債権ノ確定以後ニ於テ爲スヘキ配當ニ加入スルコトヲ得シトモ自己ノ債権ノ確定以前ニ於テ行ハルヘキ配當ヲ止ムルコトヲ得ス

調査會開會前ニ届出ヲタル場合亦然リ唯即時ノ調査ニ關スル事項ナキノミ第一〇一五條第四項獨逸破產法第一四二條第三項佛蘭西商法第五〇一條第五〇三條届出ヲ爲サナル債權者ハ配當ニ加八スルコトヲ得サルニ止マリ破產者ノ債權者タルコトヲ妨ケラレス故ニ破產者ニ對シテ自己ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ヘン然レトモ之カ爲メニ他ノ破產債權者ノ破產財團ニ對スル權利ヲ害スバコトヲ得ス又協諾契約ヲ無視スルコトヲ得ス蓋シ若シ然ラストセハ大ニ協諾契約ノ輩固ヲ害スルニ至ルフ以テナリ(佛蘭西商法第五一六條)此處又ノモ破產債權者ハ破產宣告ノ公告ニ依リ當然届出ノ催告ヲ受ケタルモノト看做サルルト雖モ所在ノ知レタル債權者ニ對シテハ特別ノ保護方法トシテ裁判所ヨリ特ニ書面ヲ以テ債權ノ届出ヲ催告スルコトアリ但特別ノ保護ナルカ故ニ書面ノ達セザルトキハ勿論裁判所ニ於テ之カ手續ヲ爲サナルコトアルモ裁判所ニ對シ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ破產債權者ハ破產宣告ノ公告ニ依リ其債權ノ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ知ルカ故ニ之カ爲メニ損害賠償ノ請求權ヲ認ムルノ理ナキヲ以テナリ其他他所居住ノ債權者ハ債權届出ト同一手續ヲ以テ裁

判所所在地ニ代人ヲ設置シ以テ破產手續ノ進行ヲ便ナラシムヘシ(第一〇一三條第一項及ヒ末項民事訴訟法第一四三條商事非訟事件印紙法佛蘭西商法第四九一條)此處又ノモ破產手續ノ終了ノ當時未タ繫屬シテ終局セザルカ爲メニ該債權ニ對スル債權者團體ニ對シ其届出債權ノ時效中斷ノ效力ヲ生ス此中斷ハ破產手續ノ終局配當及ヒ協諾契約及ヒ其停止(第九八一條)ニ至ルマテ存續シ届出ヲタル債權カ管財人破產債權者等ヨリ異議ヲ申立通法ナル債權ノ届出ハ破產者及ヒ破產債權者團體ニ對シ其届出債權ノ時效中斷ノ效力ヲ生ス此中斷ハ破產手續ノ終局配當及ヒ起リタル異議ノ目的タル債權ニ關スル訴訟ヲ終了シ若クハ中斷シ中止シ或ハ休止シタルノ事實ニ因リテ終了セス但届出債權者ト異議ノ目的タル債權ニ關スル訴訟カ破產手續ノ終了ノ當時未タ繫屬シテ終局セザルカ爲メニ該債權ニ對スル配當額ヲ供託シテ破產手續ヲ終了シタルトキハ其效力ヲ破產手續ノ終局以後ニ於テモ尙ホ存續シ該訴訟カ確定判決其他ノ方法ニ依リ終局スルニ因リテ終了ス(民法第一四七條第一五二條第一五七條獨逸民法第二〇九條第二一一條第二一四條獨逸破產法第一六八條第一項)

債権者ハ其届出ヲ破産手續ノ終了ニ至ルマテ有效ニ取下タルコトヲ得届出ノ取下ハ届出ト同一ノ手續ニ從ヒテ之ヲ爲シ又届出債権ノ時效中斷カカリシモノト看做スノ效力ヲ有ス民法第一五二條……取消……」徴逸民法第二一一條第二項但同一債権ニ關スル再度ノ届出ヲ妨ケヌ「タケル」氏カ調査期日ニ於テ承認アリタル後ニ爲シタル届出ノ取下ハ再度ノ届出權ヲ撤棄シタルモノナリト主張スレトモ正當ノ見解ニ非ナムヘシ出對照表ノ記載ノ日期より前日又ハ對照ノ期日より後日又ハ其時效中斷ナカリシヨト爲ハハ言ヲ埃及獨逸ノブランク氏カ其著民法註釋ニ於テ單純ナル條理ヲ理由トシテ反對ニ論決シタルハ贊成スルコトヲ得ス。ナム故シ簡便易通也。又私利害關係又ハ其間也相承人喪失シ且其時效中斷ナカリシヨト爲ハハ言ヲ埃及獨逸ノブランク氏カ其著民法註釋ニ於テ單純ナル條理ヲ理由トシテ反對ニ論決シタルハ贊成スルコトヲ得ス。

(二) 債権表ノ調製由債権ノ届出アリタルトキハ主任官ハ第一〇二三條第一項「破産主任官ニシテ」裁判所書記ヲシテ(獨逸破産法第一四〇條順次ニ番號ヲ付シテ通常債権表ト優先權アル債権表ト)調製セシム是レ届出債権ヲ一目瞭然ニ記載シ一面ニ於テ届出ノ結果ヲ利害關係人ニ知ラシメ他ノ一面ニ於テ調査

手續ノ材料及ヒ配當案作成ノ材料ニ供シ殊ニ配當ノ實施ニ際シ債権證書ノ代用ヲ爲サシムルノ目的ニ出ツ第一〇四七條故ニ該債権表ハ調査期日ニ於ケル調査ノ準據書面トシテ或ハ追加ヲ受ケ或ハ抹消セラル所アリ其他該債権表ハ其性質上調査會開會前ニ公衆ノ展覽ニ供スルカ爲ニニ裁判所書記課ニ備ヘ且其磨本ヲ届出書ノ磨本ト共ニ管財人ニ交付シ其職務ノ施行ニ便ナラシム(第一〇二四條獨逸破産法第一四〇條貸借對照表ノ外ニ債権表ヲ調製スル理由ハ貸借對照表カ商業帳簿ノ抜萃ニ外ナラサルヲ以テ金額ノ多少等ニ粗漏ナキコト能ハサルヲ以テナリ)

(B) 調査手續 執行名義ヲ有セザル債権ハ破産手續ニ於テ一ノ執行名義ヲ有スルニ因リテ破産的執行ニ參加スルコトヲ得又執行名義ヲ有スル債権ト雖モ適法ノ方法ニテ攻撃セラルトキハ破産的執行ヨリ除外セラル此兩者ノ爲メニ債権カ債権調査會ニ於テ管財人又ハ債権ノ確定シ若クハ貸借對照表ニ掲ケル債権者ヨリ異議ヲ申立テラナリシトキハ承認ニ因リテ又ハ異議ノ申立

アリタルトキハ其異議ヲ排斥シタル判決ニ因リテ確定ス。裁判所ノ監督ノ下ニ在ル債権者自衛主義ノ適用トシテ破産手續ノ指揮及ヒ監督ヲ爲ス職分アル破産主任官ヲ議長トシ管財人各破産債権者及ヒ破産者ヲ以テ構成シ破産宣告ノ決定ヲ以テ定メタル期間ニ開會シ且其手續ハ口頭ナリ調査會ハ通常届出期間ノ満了後十日乃至十五日間内ニ開會ス。斯ル時間ヲ存スヘキ理由ハ一面ニ於テハ債権調査ノ準備ノ爲ミニ他ノ一面ニ於テハ調査會ノ開會ヲ延滞セシムナルノ法意ニ外ナラス(第一〇二五條第三項、第九八〇條第六號)。獨逸破産法第一三八條第二項隨テ裁判所ハ破産宣告ノ決定ヲ爲スニ際シスル時間内ニ於テ期日ヲ指定セサルヘカラス(第九八〇條第六號)。獨逸破産法第一一〇條第一項調査會ノ期日ノ指定カ近キニ失シ又ハ長キニ失シタルトキハ利害關係人ハ變更ヲ申立ツルコトヲ得又該申立却下ノ裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得。此場合ニ於テ新期日ヲ出頭セサル時起訴訟法ニ據付テ當事者全體ノ利益ノ爲ミニ意見ヲ陳述スル目的ニテ調査會ニ列席セサルヘカラス。管財人ノ列席ナクシテ調査期日ノ目的ヲ達スルコトヲ得ズ然レモ之カ爲ミニ管財人ハ其他代理人ヲシテ調査期日ニ列席セシムルコトヲ得サバモノト速断スヘカラス。但主任官ハ管財人自身ノ列席ヲ必要ナリト認メタルトキハ其指揮及ヒ監督權ノ作用トシテ自身出頭ヲ命スルコトヲ得ヘシ。獨逸破産法第八三條其他主任官ハ指揮及ヒ監督權ノ作用トシテ管財人カ調査期日ニ出頭スルコトヲ得サル事實ヲ豫知シタルトキハ職權ヲ以テ該期日ヲ變更スルコトヲ得。此場合ニ於テ期日ノ變更及ヒ新期日ヲ公告セサルヘカラス。主任官ハ調査期日ヲ開キタル後管財人カ出頭セサルトキハ職權ヲ以テ延期ヲ爲ス。此場合ニ於テハ新期日ヲ言渡シタルモノナルヲ以テ新ニ公告ヲ爲スノ要ナシ。民事訴訟法第一六一條準用獨逸民事訴訟法第二一八條準用各破産債権者ハ自衛方法トシテ自己ノ利益ノ爲ミニ自己ノ債権ヲ主張シ又他人ノ債権ヲ攻撃スルカ爲ミニ自己又ハ代人ニテ調査會ニ參加スルコトヲ得而シテ調査手續

ハ訴訟上ノ口頭辯論ニ非ナルカ故ニ辯護士ニ非ナル者ヲ尙ホ代理人トシテ選定スルコトヲ得
唯此場合ニ於テハ管財人ノ職務カ債權者一箇人ノ代理人トシテノ責任ノ爲メ
ニ不公平ニ流ルノ嫌アルヲ以テ管財人自身カ破産債權者タル場合ト同シク
管財人タル行爲ヲ選クヘキノミ但債權者ノ出頭ハ調査期日維持ノ要件ニ非ナル
ヲ以テ縱令届出ヲ爲シタル債權者カ出頭セサル場合ト雖モ其届出タル債
權及ヒ優先權ヲ調査スルコトヲ得ヘシ(第一〇二五條第一項)獨逸破産法第一
四三條破産者ハ成ルヘタ調査會ニ參與セシム第一〇二五條第一項是レ調査ノ
参考上其意見ヲ聽キ又債權ノ成立及ヒ數額等ニ付キ即時訊問ヲ爲スコトヲ得
セシムルカ爲メナリ成ルヘタ參與セシムルモノトシテ必ス參與セシメサルハ
逃走等ノ爲メニ破産者ノ參與不能ノ事情アルカ爲メナリ破産者ノ出頭ハ此ノ
如ク調査期日維持ノ要件ニ非ナルヲ以テ主任官ハ破産者カ出頭セサルトキト
雖モ債權ノ調査ヲ爲スコトヲ得而シテ破産者自身ノ出頭ヲ調査上必要ナリト
認メタルトキハ之ニ出頭ヲ命スルコトヲ得第一〇二二條第一〇〇三條第三項、

獨逸破産法第一〇〇條第一〇一條第一四一條第二項其他主任官ハ必要ナル認
識ヲ得セシムルコト能ハナル代理人ヲシテ調査期日ニ出頭セシメタルトキハ
之ニ自身ノ出頭ヲ命スルコトヲ得ヘシ是レ主任官ノ有スル監督權ノ作用タリ』
調査手續ハ届出タル債權及ヒ優先權ノ存否及ヒ數額ヲ明瞭ナラシムルコト
ヲ目的トス而シテ該目的ヲ達スルカ爲メニハ各利害關係者タル破産債權者及
ヒ管財人ニ質問及ヒ辯解ヲ爲ナシメ又破産主任官ニ自由ナル審問權ヲ認メサ
ルヘカラス此等ノ質問辯解及ヒ審訊ハ口頭ニ非スンハ迅速ニ爲スコトヲ得サ
ルヲ以テ調査手續ノ口頭タルヤ疑ナシ届出タル債權ハ主任官カ其原因數額
及ヒ優先權ヲ指示シ管財人及ヒ出席シタル破産債權者ニ對シ異議アラハ之ヲ
表示スヘキ旨ヲ催告シテ調査スルモノタリ管財人ハ破産債權者團體ノ機關ト
シテ異議ヲ申立ツルコトヲ得蓋シ破産手續ニ參加スルノ權利ナキ者ノ參加又
ハ優先權ヲ有セナル債權者ノ優先的主張ヘ破産債權者團體ノ權利ヲ害スルヲ
以テナリ破産債權者ノ團體ハ破産債權者各箇人ト同シカラス故ニ管財人カ破
產債權者各箇人ノ届出ノ債權ニ對シ異議ヲ申立ツルモノナリトノ立論ヲ打破

スルモノニ非ス而シテ管財人ノ爲ス異議ハ通常届出ヲタル債權カ破産債權ニ
非サルコト該債權ノ全部又ハ一部カ既ニ消滅シタルコト(殊ニ相殺ニ因リ)又
該債權ハ商法第九百九十條以下ノ規定ニ從ヒテ無效又ハ取消スヘキモノタ
ルコトヲ原因ト爲スモノタリ然レトモ調査會ニ於テ異議ノ理由ヲ明示スルコ
トヲ要セス蓋シ異議ノ理由ハ狹義ノ確定手續進行中ニ於テ明示スヘキモノナ
レハナリ故ニ異議申立者ハ調査會ニ於テ主張シタル以外ノ理由ヲ狹義ノ確定
手續ニ於テ主張スルコトヲ得ヘシ管財人ハ其届出ヲタル自己ノ債權ニ付キ自
ラ調査ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ該債權ニ對スル承認及ヒ異議申立ハ主任官
カ管財人ニ代サテ爲スモノトス多數ノ管財人アル場合亦然リ何トナレハ甲管
財人ノ有スル届出債權ヲ他ノ乙管財人ノミニテ調査スルコトヲ得ルモノト爲
セハ多數ノ管財人ヲ設ケタル趣旨ニ反スルノミナラス管財人間ニ於ケル情實
ニ因リ不公平ニ流ルルノ弊害ヲ來スラ以テナリ而シテ主任官ハ破産手續ノ指
揮及ヒ監督者トシテ調査會ノ議長タルガ故ニ前示ノ場合ヲ除ク外自ラ承認ヲ
爲シ又ハ異議ヲ申立ツルノ職權ナシ唯指揮及ヒ監督權ノ作用トシテ債權ノ調

査上必要アルトキハ證書ノ外ニ取引帳簿ヲ提出セシメ證書アリト雖モ爾後ノ
辨済ニ因リ之ヲ帳簿ニ記入スルコトアレハナリ又浩瀚ニシテ其提出ニ便ナラ
サルトキハ其抜萃ヲ提出セシメ又ハ破産者等ヲ訊問スルノ權限ヲ有ス第一〇
二六條第二項第一〇二五條第二項第一〇二二條佛蘭西商法第四九三條獨逸破
產法第一四四條第一項

債權カ確定シ又ハ貸借對照表ニ掲ケラレタル債權、ハ届出ヲラレタル債權及
ヒ優先權ニ對シ異議ヲ申立ツルノ權利ヲ有ス各債權者ノ異議ハ總テノ利害關
係アル破産債權者ノ利益ト爲ル蓋シ異議カ其當ヲ得テ届出ヲタル債權者カ破
產手續ニ於ケル參加若クハ優先的満足ノ要求ヲ排斥セラレタルトキハ他ノ總
テノ破産債權者ハ比較的多額ヲ受クルニ至ルヲ以テナリ然レトモ之
カ異議ヲ申立ヲタル債權者ハ破産債權者團體ノ代理人ナリト速断スヘカラス
該債權者ハ破産財團上ニ滿足ヲ要求スル自己ノ權利ニ基キテ異議ヲ申立ツル
モノニシテ他ノ破産債權者カ之ニ因リテ利益スル所アルハ反射的效力タルニ
過キス債權カ確定シ又ハ貸借對照表ニ掲ケラレタル債權者ノミカ異議ヲ申立

ツル権利ヲ有シ他ノ債権者カ之ヲ有セアルハ(第一〇二六條第二項、佛蘭西商法第四九四條蓋シ自稱破産債権者ノ容隙ヲ防止シ無責任ノ異議ヲ避タルノ法意ナルヘシ債権調査會開會ノ當初ニ於テ債権ノ確定シタル債権者ハ縱令貸借對照表ニ記載ナク單ニ届出ノ上確定シタルモノニ過キスト雖モ確實ナル破産債権者タリ又貸借對照表ニ掲ケラレタル債権者ハ(調査ノ順番カ後ナルモ)少クトモ債権者ト推定スルコトヲ得ヘキモノタリ故ニ法律ハ此二者ニ限リテ届出債権ニ關スル承認ヲ爲シ又異議ヲ申立ツル権利ヲ認メタリ(千八百七年佛蘭西商法ハ債権ノ確定シタル債権者ノミニスル権利ヲ認メタリシカ道ハ債権調査會開會ノ當初ニ於テ未タ確定セル債権ナキ爲メ或ハ甚タ少數ナルカ爲ミニ債権ノ調査ニ付キ何等ノ辯明ヲ爲スコトナクシテ進行スルノ奇觀アルヲ以テ現行商法ニ於テ少クトモ債権者ト推定スルコトヲ得ヘキ者即チ貸借對照表ニ記載シタル債権者ニ異議申立權ヲ認メタルナリ)(佛蘭西商法第五〇四條、埃及太利破產法第一一九條)

是ヲ以テ(1)債権ノ届出ヲ爲サアル債権者又ハ債権調査會ニ出席セザル届出債

権者ハ異議ヲ申立ツルノ権利ナシ債権ヲ届出スガル債権者ハ其権利ヲ破産手續ニ於テ主張セアル者ナリ故ニ破産手續上ノ行動タル異議ノ申立て爲スコトヲ得ナルヤ當然ナリ隨テ届出ヲ爲シタル債権カ其届出ヲ取下ケタルトキハ其届出以前ニ爲シタル異議ハ當然其效力ヲ喪失ス又債権調査會ニ出席セザル届出債権者ハ異議申立權ヲ棄棄シタルモト看做スベキヲ以テナリ適法ニ即テ口頭ニテ異議申立て爲サリシ者ナレハナリ(2)貸借對照表ニ掲ケラレタル債権未確定ノ債権者ノ爲シタル異議ハ爾後該債権者ノ債権カ其之ニ對スル異議ノ結果トシテ起サレタル確認訴訟ニ基ケル確定判決ヲ以テ否認セラレタル場合ニ於テ當然無効ト爲ル何トナレハ異議ヲ申立シタル債権者ハ其債権ヲ否認セラレタル判決ノ確定ニ因リテ異議申立てノ権利ヲ喪失スレハナリ故ニ異議ヲ申立てタル債権者ト異議ヲ申立てタル債権者トノ間ニ繫屬セラレタル確認訴訟カ未タ終局セザルトキハ後者ノ債権ヲ否認シタル確定判決ニ因レル異議申立て權ノ喪失ヲ理由トシテ異議ヲ申立てタル債権者ノ利益ノ爲ミニ異議ヲ排斥スルヨトヲ得ヘシ然レトキ異議ヲ申立てタル債権者ト異議ヲ申

立テタル債權者トノ間ニ盤属セラレタル確認訴訟ガ前者ノ不利益ニ於テ終局シタル後即チ異議ヲ正當ト認メタル判決確定ノ以後ニ於テ異議ヲ申立テタル債權者ノ債權ヲ否認シ異議申立ノ權利ヲ喪失ゼシムル判決アリタル場合ニ於テハ該判決ヲ前示異議ヲ申立テラレ且不利益ノ判決ヲ受ケタル債權者ハ利益ニ援用スルコトヲ得ス是レ確定判決ノ效力ノ然テシムル所ナリ(3)優先權アル債權者ハ唯自己ノ權利ニ損害ヲ及ホスヘキ債權及ヒ優先權ニ對シテノミ異議ヲ申立ツルコトヲ得故ニ優先權アル債權者トシテ確定セラレタル債權者ハ單純ナル届出債權若クハ自己ヨリ劣等ノ順位ニ在ル優先權及ヒ債權ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス(ニフケル「ペーナルゼン氏等ハ優等ノ順位ニ在ル優先權ヲ有スル債權者ト雖モ不當ナル債權ニ對シ異議ヲ申立テ債權者集會ニ加ハリテ行動スルコトヲ防クノ利益ヲ有スルヲ理由トシテ反對ニ論決スレトモ予輩ハブギフニド民ト其ニ斯ル見解ヲ排斥ス蓋シ斯ル利益ハ異議ヲ許スカ爲メニ甚タ不十分ナレハナリ)

各破産債權者ノ爲ス異議ハ通常届出債權カ破産債權ニ非サルコト届出債權ノ

全部又ハ一部カ既ニ消滅シタルコトヲ原因トス然レトモ管財人ノ爲ス異議ト異ニシテ届出債權カ商法第九百九十九條以下ニ規定シタル法律行爲ヨリ發生シタルモノナルコトヲ原因ト爲スヘトヲ得ス何トナレハ該條ニ基ク行爲ノ無效及ヒ取消ノ主張ハ管財人ノ専屬の權限ナレハナツ但債權者ハ管財人ト同シク異議ノ理由ヲ調査會ニ於テ明示スルコトヲ要セス佛蘭西法系諸國ノ立法例ニ於テハ佛蘭西商法第四九四條伊太利商法第七六三條自耳義商法第五〇三條等破産者モ亦破産債權者ト同シク破産債權者ニ對スル利益防衛ノ爲メニ異議申立權ヲ認ムルトキハ故ラニ無責任ノ異議ヲ提出シ破産手續ノ紛擾及ヒ延滞ヲ來スノ處アルノミナラス被盜者ノ權利ヲ害セザル方法ニ於テ破産債權者ノ團體ニ共同満足ヲ得セシムル管財人ノ職分ヨリシテ破産者ノ利益カ適當ニ保謹セラルノワ以テ破産者ニ異議申立權ヲ認ムルノ要ナシトノ理想ニ基ケルモ

ナルヘシ但破産者カ債權調査會ニ於テ届出債權ノ成立及び效力等ニ付キ争セタルトキハ破産手續終結後破産手續ニ於ケル債權ノ確定ニ因リテ債權者カ被産者ニ對シ直チニ強制執行ヲ爲スコトヲ得サルヘシ其詳細ハ調査ノ結果ノ説明ニ譲ラン

以上説明シタル異議申立權者ハ債權調査期日ニ於テ異議ヲ申立テラント欲スル各債權ノ辯明ノ終局以前ニ口頭ヲ以テ異議ヲ申立テサルヘカラス該辯明手續完了以後ニ於テハ異議ヲ申立ツルコトヲ許サス調査期日ニ出席セサル債權者ト離モ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス而シテ異議ヲ申立テラレタル債權及ヒ優先權ニ關シテハ其債權者カ調査期日ニ出頭シタルトキニ限リ一ノ善良ナル和熟ラ爲サシムルカ爲メニ適當ナル取扱ヲ爲スコトヲ得殊ニ主任官ハ斯ル目的ノ爲メニ延滞ヲ生セサル限ニ於テ證據調査ヲ爲スバコトヲ得但主任官ハ之カ爲メニ證據調査ノ決定ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ證據決定ヲ以テスル取扱ハ手續ノ進行ニ付キ延滞ヲ來スラ以テナリ總テノ届出債權及ヒ優先權ノ調査ヲ一日間ニ完了スルコトヲ得サルトキハ獨逸破産法ニ於テハ民事訴訟法第百三十三條第三

項及ヒ第二百六條ノ準用トシテ債權調査ノ續行期日ヲ指定シ且之ヲ言渡スヘキモノトシ呼出及ヒ公告ハ之ヲ要セサルモノノ如シ佛蘭西商法(第四九三條)及ヒ我商法草案理由書ニ依レハ別ニ期日ヲ定ムルコトナク翌日ニ續行シテ調査ヲ完了セシムルモノノ如シ是レ記憶ヲ去ラシメサルト且破産手續ノ迅速終局ヲ欲スルトニ基因スルモノト思ハル我商法ニ於テハ特ニ明文ナシト雖モ草案理由書ノ如キ法意ナリト認ム其他異議ハ調査期日ノ終了以後ニ於テモ仍ホ書面又ハ口頭ニテ民事訴訟法第一三五條取消スコトヲ得シ調査會ノ適式ナルコト調査手續進行ノ大要トフ證センカ爲メニ調査調書ヲ作成スヘキコトハ佛蘭西及ヒ獨逸ノ破産手續ニ於テ認タル所ナリ(佛蘭西商法第四九三條、第四九五條獨逸破産法第七二條第一四五條調査調書ハ主任官ノ指揮ノ下ニ於テ裁判所書記之ヲ作ル是レ調書ノ信用力ヲ保ツカ法意ナリ其之ニ記載スヘキ事項ハ法律上明文ナシト雖モ民事訴訟法第一百二十九條第一項乃至第四項、第一百三十條第一項第二號ノ準用ニ基ク事項、證書ノ還付其他佛蘭西商法第四百九十五條ニ規定シタル事項殊ニ債權者ノ氏名住所證書ノ概要塗抹ノ被産法
形式的破産法規
破産手續ノ進行
被破債權及々破産財團ノ確定手續
第五四九

有無承認否認即チ調査ノ結果ヲ記載スルコトヲ要ス何外ナレハ調書ハ證書ナキカ若クハ證書アリタルモ後日紛失シタル場合ニ於テ之カ代用ヲ爲スヘキモノナレハナリ(第一〇二五條)^{〔文〕}〔註〕此處指據證書百二十武特種一具民
(二)調査ノ結果及調査ノ結果ハ各届出債権ニ對スル承認及ヒ異議方二者タリ
債權調查會ハ斯ル結果ヲ生セシタル後ニ於テ終了ス是レ其目的ヲ達シタル
ヲ以テナリ而シテ債權調查會ノ終了ハ之ヲ調書ニ記載セサルハカラス何外け
レハ道ハ該會ノ終了ニ關スル證明ノ最モ専タルモシナルヲ以テナリ(第一〇二
五條)^{〔二〕}又ハ調査會ノ終リタル後再び證明材料ト爲ル獨逸破産法ハ調査ノ結
果ヲ債權表ニ記入スルニ因リヲ調査手續ノ終了ヲ告クルモカト爲シタリ左ニ
承認ト異議トヲ略述スヘシ^{〔註〕}此處指據證書百二十武特種一具民
(a)承認 承認トハ届出債権ニ對シ異議ヲ申立ツル權利ヲ有スル者カ主任官
ノ面前ニ於テ客届出債権ニ付キ破産的執行権ノ存在ヲ是認スルノ行爲ナリ故
ニ其性質ハ裁判士ノ認諾ニシテ即チ單獨的訴訟行爲ニシテ佛蘭西法曹フ主張
スルカ如ク破産機關ト届出債権者トノ間ニ締結セラレタル裁判士ノ契約ニ非

ス承認ノ方法ニ明示及ヒ觀示ノ別アリ異議申立権者カ調査期日ニ於テ特定ノ
届出債権ニ付キ破産的執行権ノ存在ヲ是認スル旨ヲ明示シタルトキハ明示ノ
承認ト爲リ調査會ニ於テ出席シタル異議申立権者カ異議ヲ申立ヲサルトキ又
ハ之ヲ申立ラタルヲ適法ニ取消シタルトキハ默示ノ承認ト爲バ異議ハ調査會
ノ終結以後ニ於テモ仍ホ有效ニ取消スコトヲ得ルハ前述シタル所ナリ(第一〇
二六條第一項、第二項第一〇二七條獨逸破産法第一四四條第一項佛蘭西商法第
四九七條)^{〔註〕}届出債権ノ承認ニハ異議ノ申立ナキノミヲ以テ足レリトシ承認セラ
ルヘキ届出債権ノ債権者カ調査期日ニ出頭シタルコトヲ必要トセス届出債権
ハ斯ル債権者ノ出頭ヲ要セシム調査スルコトヲ得レハナリ然レトモ二人以
上ノ管財人アリヲ此等ノ者カ異議ノ申立ヲ爲ナカルコトニ一致セサルトキハ
默示ノ承認ノ成立ヲ害スルモノタリ蓋シ異議ノ申立ヲ爲ナント欲スル管財人
カ他ノ管財人ノ意思ニ制限セラレ而モ異議ノ申立ヲ爲ナリシニ因リテ生じ
タル損害賠償其他ノ責任ヲ共ニ負フヘキコトハ大ニ不當ナレハナリ殊ニ斯ル
場合ニ於テハ管財人が異議ヲ申立ツルコトヲ得ス唯之カ爲メニ責任ヲ生シタ

ルトキハ管財人間ニ於テ損害賠償ノ責任問題ヲ惹起スノミト云ヘル學説ハ採用ス「カラス承認ハ單獨的訴訟行為ナルヲ以テ意思ノ表示ニ因リテ完成ス而シテ證明ノ爲ミニ調査證書ニ之ヲ明記スバハ當然ナリ民事訴訟法第一三〇條第一號準用(獨逸破產法ハ調書ノ一部タル債權表ニ異議ナキコト)記載スルニ因リテ承認ヲ完全ニ成立セシメタリ(獨逸破產法第一四五條裁判上ノ認諾ハ其效力トシテ確定力ヲ有スルカ故ニ獨逸破產法第一四五條第二項ハ届出債權ニ關スル承認ハ總ノ破產債權者ニ對シ確定判決ト同一ノ效力アラシメタリ)我商法ニ於テモ承認ヲ判決ト同一地位ニ置キ以テ之ニ確定力ヲ認メタルコトハ商法第十二十六條第一項ノ明文ニ徵シ甚タ然タリ是ヲ以テ(1)承認ニ因リ届出權利ノ確定シタル債權者ハ他ノ破產債權者及ヒ管財人ニ對シ該權利ヲ確定判決ニ因リテ確定シタルモノト同一ニ取扱ハシムヘキ旨ヲ主張スルコトヲ得又爾後承認セラレタル權利ヲ認メサル者アルトキハ之ニ對シ一事不再理ノ抗辯ヲ提出スルコトヲ得又他ノ破產債權者及ヒ管財人ハ承認ニ因リ届出權利ノ確定シタル債權者カ新ニ爾後數額ヲ増加シテ同一債權ノ届出ヲ爲シ同一原因

ニ基ク損害賠償請求権ノ金額ヲ增加スルカ如キ又優先權ナキモノトシテ確定セラレタル債權ニ付キ新ニ優先權アル旨ヲ主張シタル場合ニ於テ確定力ノ抗辯ヲ提出スルコトヲ得ヘシ(2)承認ニ因リ届出權利ヲ確定シタル債權者ハ他ノ破產債權者ニ對シ破產手續ニ從ヒテ満足ヲ享有スルノ權利ヲ有シ又他ノ各破產債權者及ヒ管財人ハ確定シタル請求ニ對スル異議ノ訴若クハ再審ノ訴ヲ以テスルニ非スンハ承認ニ因リテ確定シタル權利ヲ攻撃スルコトヲ得ス確定シタル請求ニ對スル異議ノ訴ニ關シテハ民事訴訟法第五百四十五條ノ規定ヲ準用スヘキモノナルヲ以テ異議ノ原因カ調査期日ノ終了以後ニ發生シ且數箇アルトキハ同時ニ之ヲ主張スルコトヲ要ス又該訴訟ハ破產裁判所ノ管轄ニ専屬ス(民事訴訟法第五六三條再審ノ訴ニ關シテハ民事訴訟法第四百六十七條ノ規定ニ依ル但承認ニ因リテ届出權利ノ確定シタル債權者モ亦其確定ノ效果カ自己ノ不利益ニ歸スルトキハ再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ルヤ當然ナリ而シテ此等ノ訴カ提起セラレタルヨキハ民事訴訟法第五百四十七條ニ則リ執行即チ支拂ヲ停止ス債權者ハ調査期日ニ出頭セス且異議ヲ申立ツルコトヲ

得ナリシコトヲ理由トシテ承認ニ因リ確定シタル權利ヲ攻撃スルコトヲ得ス
蓋シ原狀回復ノ申立ハ天災其他避クヘカラナル事變ニ因リ不變期間ヲ遵守ス
ルコト能ハナル場合ニ許サル（キモノナレハナリ）佛蘭西商法ニ於テハ承認ハ
判決ニ非ス隨テ確定力ナシ故ニ承認ニ錯誤、ノ存シタルヲ理由トシテ民法上ノ
原則ニ基キ承認シタル債權ヲ動スコトヲ得又ハ其數額ニ増減ヲ爲スコトヲ得
ト云ヘル說ト承認ハ利害關係人ノ認諾若クハ裁判上ノ契約ニ同シ是レ承認以
後ニ於テ債權ノ攻擊ヲ許ストキハ各債務者ノ地位カ不确定ニシテ安全ニ清算
ヲ爲スコトヲ得サルニ至ルヘキヲ以テナリ故ニ承認以前ニ取消若クハ解除ノ
原因ヲ主張スルコトヲ懈怠シタル者ハ爾後之ヲ主張スルコトヲ得ス承認セラ
レタル債權額ノ過不足ヲ主張スルコトヲ得ス又承認セラレタル債權ノ全部又
ハ一部カ消滅シタルコトヲ主張スルコトヲ得ス錯誤ヲ理由トスルモ亦然リ但
承認カ詐欺若クハ強暴ニ因リヲ成立シタルカ又ハ公ノ秩序ニ反スル所アレハ
爾後承認セラレタル債權ヲ攻擊スルコトヲ得蓋シ前者ノ場合ニ於テハ利害關係
者ニ不注意ノ責ムキモノナク後者ノ場合ニ於テハ裁判上ノ契約タルカ故

ニ公ノ秩序ニ反スルコトヲ得サルヲ以テナリト云ヘル說トノ二者アリ前說ハ
「ボフステル氏及ヒ舊判例」ノ採リタル所ニシテ後者ハ「リオンカン」氏及ヒ新判例
ノ採リタル所ナリ

破産者カ債權調査會ニ於テ爲シタル破産債權ニ關スル認諾ノ有無ハ該債權ノ
承認ニ因ル確定其モノニ何等ノ影響スル所ナシト雖モ理論上破産手續終結以
後ニ於ケル取立權ニ影響スルヲ當然トス蓋シ破産者カ調査期日ニ於テ認諾セ
サル旨ヲ表示シタル破産債權カ承認又ハ後述スル所ノ異議ヲ排斥シタル確定
判決ニ因リテ確定シタルヲ理由トシテ破産手續終結以後破産者ニ對シ直チニ
執行ヲ爲スコトヲ得ルノ名義ト爲ルハ破産者ノ權利保護ニ甚タ薄シト謂ハサ
ルヘカラサルヲ以テナリ是ヲ以テ獨逸破產法ハ破産者カ調査期日ニ於テ或届
出權利ヲ認諾シ若クハ之ヲ争ハサルトキハ破産手續ニ從ヒテ確定シタル債權
ノ確定カ破産者ニ對シ確定判決ト同一ノ效力ヲ有スト規定シタリ故ニ債權者
ヲ爲メニハ破產手續終結以後破産者ニ對シ無限ニ強制的執行ヲ爲スノ執行名
義ト爲リ又債務者ニ對シテハ再審ノ訴若クハ確定シタル請求ニ關スル異議ノ

（民事訴訟法第467条以下第545条ヲ以テスルニ非スンハ攻撃スルコト能ハサルノ效力ヲ有ス獨逸破産法第一六四條第二項、第一九四條、第二〇六條第二項、民商法第49條ニ於テハ破産手續ノ終局以後債務者ニ對シ無限ニ執行ヲ爲スニ付キ債務者カ届出權利ニ關シ争ヒタルヤ否ヤノ區別ヲ問ハサルニ假タリ是レ後述ノ如ク管財人ヲ以テ破産者ノ代理人ト看做ス思想ニ基因スルモノニシテ立法上其當ヲ得ナルモノト謂フヘシ元來破産者カ調査期日ニ於テ爲シタル届出債権ニ關スル認諾ハ其性質上裁判上ノ認諾ナリト雖モ自己ニ對スル執行手續ニ於ケル認諾ニシテ自己ニ對シテ繫屬シタル訴訟手續ニ於ケル認諾ニ非ス故ニ破産者ニ對スル執行名義タルノ效力ナク唯將來破産者ニ對シ起スヘキ訴訟ニ於テ該認諾ヲ裁判上ノ認諾トシテ援用シテ認諾判決ヲ受クルコトヲ得ベキノミ然レトモ費用、努力及ヒ時間ヲ省略スル目的ヲ以テ破産手續ニ從ヒテ債権カ確定シタルトキハ斯ル認諾ニ認諾判決ニ於ケルト同シク執行名義及ヒ判決確定ノ效力ヲ認ムルハ立法上失當ニ非ス又同一ノ目的ヲ以テ破産者カ争ハサル破産債権ニ付キ認諾シタルト同一ノ效力ヲ認メ破産手續ニ於

ケル破産債権ノ確定ヲ要件トシテ判決確定ノ效力及ヒ執行名義タルノ效力ヲ認ムルモ亦然リ

(b) 異議ハ異議ハ届出權利ノ承認ヲ妨タルノ意思表示ナリ届出權利ノ承認ヲ妨タルモノナガカ故ニ承認ノ成立前ニ非スンハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス又承認ヲ妨タル意思表示ナルカ故ニ異議申立権者カ特定ノ債権ニ對シ異議アリトノ旨ヲ表示スルヲ以テ足レリトシ其理由ヲ明示スルノ要ナシ其他別ニ特別ノ方式ナシ然レトモ争點カ適當ニ説明セラルコトハ調和ノノ爲メ甚タ希望ベキコトナルヲ以テ主任官カ其訊問権ヲ以テ之ヲ明瞭ナラシムルノ権限ヲ有スルヤ當然ナリ而シテ異議ノ理由ハ之ヲ明示スルノ要ナキヲ以テ異議申立権者カ調査期日ニ陳述シタル異議ノ理由ニ付キ拘束セラルコトナシ性質各異議ハ調査期日ニ出頭シタル各異議申立権者カ口頭ニテ申立ツルコトヲ得セシムルシ債権ノ調査ハ届出權利ノ存否及ヒ數額ヲ明白ナラシムルコトヲ得セシムルヲ以テ調査期日ニ出頭セシシテ書面ヲ以テ異議ヲ申立ツルコトヲ得セシムルハ大ニ該目的ニ背馳スルカ故ナリ（方法異議ヲ申立カラレタル届出權利ハ該異

議ヲ除去スルニ非スンハ確定セナルモノタリ此除去ハ調査期日ニ於テ又ハ其期日以後ニ於テ爲ナルムノタリ其除去ニム取消ト異議排斥確定判決トノ二方法アリ異議申立權者ハ其申立ヲタル異議ヲ調査期日ニ於テ又ハ其期日以後ニ於テ書面又ハ口頭ニテ(民事訴訟法第一三五條)取消スコトヲ得蓋シ異議ノ申立ハ債權者ニ對シテハ其利益防衛ノ爲ミニスル隨意ノ權能ニシテ又管財人ニ對シテハ其自由ナル意見ニ任セラレタル職權ノ作用ナレハナリ殊ニ管財人ハ届出債權ニ對シ異議ヲ申立ツルト否トヲ判断スルノ職權ヲ有ス異議申立ノ取消ハ異議ヲ申立テサルモノト其實質ヲ同シクスルモノナリ随テ管財人カ其申立ヲタル異議ヲ取消スコトヲ得ルハ當然ナリ異議申立ノ取消ハ之ヲ申立ヲタル債權者ニ該取消ヲ知ラシムルカ爲ミニ送達セサルヘカラス但該債權者カ調査期日ニ出頭シ異議申立ノ取消アリタルコトヲ知リタル場合ハ此限ニ在ラサルヤ言ヲ埃タス判決ニ依レル異議除去ノ方法ハ次款ニ説明スル所ナリ(效果第一〇二七條第一項獨逸破產法第一四四條第一項)

破產者カ債權調査會ニ於テ届出權利ニ對シ争ヒタルトキハ其權利ヲ有スル債權者ハ縱合該權利カ破產手續ニ於テ確定シタリト雖モ破產手續終結以後債務者ニ對シ執行名義アルモノトシテ直チニ強制執行ヲ爲スコトヲ得サルヲ當然トス(前述ノ説明參考是ヲ以テ獨逸破產法ハ破產者カ調査期日ニ於テ届出債權ヲ争ヒタルトキハ其權利ニ關スル破產手續ニ從フ確定ハ破產者ニ對シ效力ナシ隨テ該權利者ハ破產手續終結以後破產手續ニ於ケル權利ノ確定ヲ執行名義トシテ債務者ニ對シ執行ヲ爲スコトヲ得ス又該權利ニ關シ破產手續開始前ニ繫屬シ且破產手續開始ノ爲ミニ中斷シタル訴訟ヲ以後破產者ニ對シテ破產者ノコトヲ得ル旨ヲ規定シタリ(是レ破產債權者ノ利益ノ爲ミニ破產者ノ異議ノ結果トシテ破產手續終結以後ニ於ケル執行ノ延滞ヲ防止スルノ法意ナリ)民事訴訟法第一七九條獨逸破產法第一四四條第二項第一六四條第二項我商法第千四十九條ニ於テ管財人カ破產者ヲ代表スルコトヲ理由トシテ破產者ノ異議アルコトヲ得ル旨ヲ規定シタリ(是レ破產債權者ノ利益ノ爲ミニ破產者ノ異議ノ結果トシテ破產手續ニ於テ確定シタル債權ニ基キ破產者ニ對シ無限ニ執行ヲ爲スコトヲ得セシムルハ立法上失當タルヲ免レス何トナレハ管財人ハ債權者團體ノ機關ニシテ異議ヲ申立ツルモタリ行爲無能力者ニ非スレナリタルニモ拘ハラス破產手續ニ於テ確定シタル債權ニ基キ破產者ニ對シ無限ニ執行ヲ爲スコトヲ得セシムルハ立法上失當タルヲ免レス何トナレハ管財人ハ

處分無能力者ニ外ナラナル破産者カ法定代理人ニ依リ破産手續上異議ヲ申立タルコトヲ得ルト云フハ擅著シタル觀念ト謂フヘケレバナリ。スルニ付記スル調査ノ結果即チ承認及ヒ異議ハ債權表及ヒ債權證書ニ附記シ且債權者若クハ其他ノ人ニ通知ス(第一〇二五條第二項)佛蘭西商法第四九七條債權表ニ附記スルハ債權證書ナキカ又ハ紛失シタル場合ニ實效アラシムルカ爲メニシテ又債權證書ニ附記スルハ届出權利ノ破産的執行ニ關スル效能ノ程度ヲ明示スルカ爲メニシテ又債權者若クハ其他ノ人ニ通知スルハ確定ノ訴ヲ提起スルノ必要不必要ヲ知ラシムルカ爲メナリ。

(c) 狹義ノ確定手續。異議ヲ申立テタル債權者若クハ管財人カ其異議ヲ取消ササルカ又ハ異議ヲ申立テラレタル債權者カ其債權ノ届出ヲ取下ケナル場合ニ於ラハ(第一〇二七條)佛蘭西商法第四九八條、佛蘭西民事訴訟法第七二條、第四一六條、獨逸破產法第一四四條、第一四五條異議ヲ申立オラレタル届出權利ニ開スル確認ノ訴ヲ提起シ判決ヲ以テ該權利ニ關スル異議ノ當否ヲ確定セサルヘカラス蓋シ債權者ハ破產手續ニ從ヒテ確定シタル權利ニ基クニ非スンハ破產

的執行ヲ爲スコトヲ得サレハナリ(第一〇二六條、第一〇二九條)「……然レトモ異議ヲ受ケテ訴訟中ニ在ル債權引用」。テラレタル權利確定ノ訴ト破產手續トノ關係ニ付テハ立法上ニ主義アリ獨逸普通法ハ届出權利確定トノ關係ニ付テハ立法上ニ主張シ且之ヲ確定手續ノ一成分ト認メタレトモ獨逸破產法ハ異議ヲ申立テラレタル權利確定ノ訴ヲ全然破產手續ノ外ニ在ル獨立的訴訟トシ唯其結果カ破產手續ニ關聯スルノミト認メタリ其他佛蘭西商法第四九八條(伊太利商法)第七六三條等亦獨逸普通法ノ觀念ニ依ラシテ破產手續ト確定手續トノ併合ナル觀念ニ依リテ立法シタルモノノ如シ我商法ハ此點ニ於テ大ニ曖昧ヲ極メタレトモ草案理由書ニ依レハ佛蘭西派ノ立法ニ傾ケルモノノ如シ左ニ訴ノ性質當事者訴訟手續管轄裁判所判決手續及ヒ判決ノ效力及ヒ其他ノ點ヲ略述スヘシ(a)訴ノ性質當事者及ヒ訴訟手續ニ届出權利ノ確定ヲ目的トスル訴ハ一ノ確認訴、ニシテ執行訴訟ニ非ス何トナレハ道ハ訴訟の異議ノ排斥ヲ目的トスルニ外ナラナレハナリ多數ノ學者殊ニ「ゾキフェルド」「ツキルモースキ」「ワッハ」

「エッケル」氏等ハ此種ノ訴訟ハ唯リ法律關係ノ成立若クハ不成立ノ確認ヲ目的トスルノミナラス却テ破産手續ニ於ケル滿足享有ノ許容ハ確定ヲ目的トスル訴訟上ノ結果ニシテ目的ニ非ナルヲ以テ「コーレル」「ペーテルゼン」氏等ノ如ク確認訴訟ト謂フア正當ト認ム性質。

届出債權確定訴訟ノ當事者ハ異議ヲ申立アラレタル債權者及ヒ之ヲ申立テタル債權者又ハ管財人ナビコトハ疑ナシト雖モ就レカ原告ニシテ執レカ被告ナルヤ即チ我商法第千二十七條ニ所謂原告被告トハ如何ナル者ナルヤノ問題ハ特ニ明文ナキヲ以テ學理上論爭ノ餘地アリ獨逸破產法ニ於テハ異議ヲ申立テラレタル届出權利カ既ニ執行名義若クハ少クトモ終局判決ヲ具備シタルト否トニ從ヒテ區別ヲ爲シ前者ノ場合ニ於テハ該權利ハ異議申立者カ該權利ノ終局判決若クハ執行名義ヲ除去スルコトヲ成功セサル旨ノ條件ノ下ニ於テ破產手續ニ參加スルコトヲ許サルルモイナリトノ思想ニ基キ異議申立者カ異議ヲ

申立アラレタル者ニ對シ異議ノ訴ノ名ニ於テ又後者ノ場合ニ於テハ該權利者ハ異議ノ排斥ヲ成功シタル旨ノ條件ノ下ニ於テ破產手續ニ參加スルコトヲ許サルモノナリトノ思想ニ基キアリ申立アラレタル者カ異議申立者ニ對シ確認訴訟ノ名ニ於テ確定ノ訴ヲ提起スルモノタリ佛蘭西商法ニ於テハ明文上大ニ曖昧ヲ極メタリト雖モ後述ノ如ク事件カ商事裁判所ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テハ異議ヲ申立アラレタル債權者ノ申立又ハ破產主任官ノ報告ニ因リ届出權利確定ノ手續ヲ爲シ民事裁判所若クハ刑事裁判所ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テハ法律上訴權ヲ有スル者ノ求ニ因リ裁判スヘキモノタルニ似タリ佛蘭西商法第四九八條、第五〇〇條等我商法ハ法文上何等ノ區別ナキヲ以テ異議排斥ニ付キ利益ヲ有スル異議ヲ申立アラレタル債權者カ當ニ原告トシテ異議申立者ヲ被告トシテ確定ノ訴ヲ提起セサルヲ得スト論決スルヲ可トス立法論トシテ獨逸破產法ヲ正當ト認ム蓋シ權利ノ届出ハ裁判上ノ確定力ナク且執行名義ヲ備ヘサルヲ以テ届出債權者カ確定ノ手續ヲ悉シ且之ニ依リテ破產財團ノ配當ニ參加スルコトヲ得ヘキ執行名義ヲ得ルヲ當然トス隨テ届出債權者ハ其屆出

權利ニ對スル異議申立者ニ對シ確定ノ訴ヲ提起スヘキモノナルヤ明白ナリト
雖モ届出權利ニ付キ勝訴終局判決若クハ執行名義ニ存スルトキハ債務者タル
破産者ノ一般承繼人ニ外ナラサル破産債権者ニ對シ尙ホ效力ヲ有スルヲ當然
トス隨テ各破産債権者及ヒ破産債権者團體ノ機關トシテ異議ヲ申立フヘキ管
財人ハ破産者其人ト同シク確定判決ヲ經タルモノニ對シテハ再審ノ訴又ハ異
議ノ訴民事訴訟法第五四五條判決及ヒ決定ヲ受ケタル者ニ對シテハ上訴又ハ
故障等ヲ爲シテ異議ノ正當ナル旨ヲ主張セサルヘカラサルヲ以テナリ(當事者)
獨逸破産法ニ於テハ異議ヲ申立テラレタル届出權利ノ確認訴訟ニ基ケル確定
ノ方法トシテ該權利ニ關シ破産手續開始前ニ於テ未タ訴訟カ繫屬セサリシト
キハ通常ノ手續ニ從ヒテ新ニ届出債権確定ノ訴ヲ提起シ又既ニ訴訟カ繫屬シ
タルトキハ異議申立者ニ對シ破産手續ノ開始ニ因リ中斷セラレタル訴訟ヲ受
繼スルノ手續ヲ爲シテ訴訟ヲ進行スヘキ旨ヲ規定シタリ而シテ起訴又ハ受繼
ニ付キ法文上新ニ期間ヲ定メサレントモ配當實施ノ公告ヨリ二週間内ニ管財人
ニ對シ之カ手續ヲ悉シタルコトヲ證明スルニ非スンハ異議ヲ申立テラレタル

權利ヲ配當ニ際シ斟酌セサルヲ以テ債権者ハ其權利ノ防禦上適當ノ期間内ニ
起訴又ハ受繼ヲ爲スコトト爲ル破産裁判所ハ債権者ヲシテ斯ル手續ヲ爲スコ
トヲ容易ナラシムルカ爲メニ異議ヲ記載シタル債権表ノ抜萃謄本ヲ交付(ス)獨
逸破産法第一五二條第一四六條第一項(獨逸破産法百四十六條第二項ニ於テ
ハ通常ノ手續ニ於テ確定ノ訴ヲ提起スヘシト規定シタルヲ以テ通常ノ手續ト
ハ民事訴訟法ニ於ケル通常ノ手續ナルヤ又ハ破産手續ニ非サル手續ナルヤ
ニ付キ學者ノ論争ヲ招キタリ獨逸ノ「ヨーレル」氏ハ茲ニ所謂「通常手續」ヲ破産
手續ニ屬セナル各手續即チ破産手續ト相對スルモノト解シ證書訴訟及ヒ爲替
訴訟ノ手續ニ依リ確定ノ訴ヲ提起シ又ハ受繼シテ之ヲ續行スルコトヲ得ヘキ
旨ヲ主張シ「ザルフィイ氏」ハ茲ニ所謂「通常手續」ヲ民事訴訟ノ意味ニ於ケル
手續ト解シ證書訴訟爲替訴訟ノ如キ特別ノ手續ハ確定ノ訴ニ依ルコト能ハサ
ルモノナリト主張シ「アキフルド」氏モ亦證書訴訟爲替訴訟及ヒ督促手續ノ如
キハ終局ノ結果ヲ生ゼシメサルヲ以テ確定ノ訴ノ形式ニ適セナル旨ヲ主張シ
「ガウブ」「ウキルモースキ」氏等ハ證書訴訟及セ爲替訴訟ハ支拂若クハ給付ヲ履

行セシムル手續ニシテ獨逸破産法第百四十六條ニ規定シタル確定ノ訴其他獨逸民事訴訟法第二百三十一條第二百五十三條ニ規定シタル確認ノ訴ニ適用ナシト主張シタリ訴訟物ノ價額ハ獨逸破産法第百四十八條ニ於テハ破産債權ト破産財團トノ配當的割合即チ假定ノ金錢的利益ヲ以テ訴訟物ノ價額ト爲シタリ故ニ割合カ百分ノ三ナルトキハ金千圓ノ確定訴訟ニ於テ金三百圓ヲ以テ訴訟物ト爲ス是レ蓋シ破産手續ニ於テハ配當額ニ於テノミ確定ノ效力ヲ表彰スヘキモノナリトフ趣旨ニ基ケルナルヘシ我商法ニ於テハ其第千四十九條ニ依リ破産者ニ對シ確定シタル權利ニ基キ無限ニ執行スルコトヲ得ヘキヲ以テ斯ル見解ヲ採ルコト能ハナルヤ瞭然タリ訴訟ノ受繼及ヒ其續行ハ從來ノ訴訟的成蹟ヲ利用スルノ法意ニ基ケリ而シテ執行訴訟ヲ爾後適法ニ確認訴訟ニ變更スルコトヲ得ルハ獨逸民事訴訟法學者ノ是認スル所ニシテ又我大審院ノ明治三十年三月二十日判例ノ是認スル所ナリ其外異議ヲ申立テラレタル届出權利ノ異議訴訟ニ基ケル確定ノ方法トシテハ異議申立者カ届出權利ニ對スル異議ノ原因ニ從ヒテ適當ナル訴訟ヲ爲スモナタリ故ニ届出權利ノ名義ニ對スル攻撃トシテ

擊トシテハ故障、上訴、再審ノ訴ヲ以テシ留保ヲ掲ケタル判決ニ對スル攻撃トシテハ爾後ノ手續ヲ繫属セシムアルノ途ヲ採リ又執行文ニ對スル攻撃トシテハ異議ノ申立又ハ異議ノ訴ヲ以テシ訴訟事件カ既ニ繫属シタルトキハ訴訟受繼ニ因リテ異議ヲ主張ス民事訴訟法第五二二條、第五六二條、第二項、第五四六條、第五六一條第三項、第五六二條第四項、第五四五條、第五六一條、第二項、第三項、第五六二條第三項、第四三七條、第四九二條、獨逸民事訴訟法第七三三條、第七九七條第三項、第七六八條、第七九六條、第三項、第七九七條第五項、第七六七條、第七九六條、第二項、第三項、第七九七條第四項、第三〇二條第四項、第五四一條、第六〇〇條而シテ名義ノ原因タル債權カ債權者ニ損害ヲ被ラシムルカ爲メニ成立シタルモノナルトキハ唯リ管財人ノミカ異議ヲ申立テ獨逸破産法第二十九條以下ノ規定ニ從ヒテ之ヲ攻擊スルコトヲ得ヘシ佛蘭西商法ニ於テハスル重要ナル問題ニ關シ何等ノ明文ナク又之ニ論及シタル學說ナシ唯佛蘭西商法第四百八十八條第一項ヲシテ該爭訟ヲ職權ヲ以テ管轄裁判所ニ送達セシムル旨ヲ示シタレトモ主任官

官カ該職權ヲ行使セサルトキハ通常ノ手續ニ從ヒ相手方ニ呼出狀ヲ發セサル
ヘカラサルカ如シ我商法ニ於テ亦然リ然レトモ商法第千二十七條及ヒ第千二
十九條然レトモ異議ヲ受ケテ訴訟中ニ在ル債權ヲ綜合シ異議ヲ申立テラレタ
ル債權者カ確認訴訟及ヒ異議訴訟ノ區別ナク漠然確定訴訟トシテ破産裁判所
ニ起訴スヘキモノト論決スルヲ正當トスルニ似タリ(獨逸破產法ニ於ケルカ如
ク訴訟受繼ノ方法ヲ認メサルハ缺點ナリ)而シテ其起訴期間ハ法文ノ定メサル
所ナレトモ成ルヘク該訴訟終局以後ニ於テ破産手續ヲ終局セシメントスルノ
法意第一〇二八條第一項上段ヨリ推理シ當事者ハ適當ノ期間ニ之カ手續ヲ爲
ナサルヘカラス然ラスンハ異議ヲ受ケ訴訟中ニ在ラサル債權者即チ債權ノ確
定セサル債權者トシテ取扱ハルベシ(確定訴訟ハ民事訴訟法ニ規定シタル通常
ノ手續ニ從ヒテ之ヲ爲シ證書訴訟及ヒ爲替訴訟ノ手續ニ從ヒテ之ヲ爲スコト
ヲ得ス獨逸ノ「コーレル民」ハ此手續ニ於ケル執行名義ハ一時的性質ヲ有スルニ
過キスト雖モ而モ確定的終了ヲ導クニ足ルモノナルコトヲ理由トシテ反對ニ
論決スト雖モ證書訴訟及ヒ爲替訴訟ハ支拂又ハ給付ヲ目的トスル執行訴訟ノ

手續タル特色ヨリ推究斯レハ前示ノ如ク論決スルヲ正當ト謂ハナルヘカラス
(民事訴訟法第四八四條以下参照)訴訟物ノ價額ハ民事訴訟法ノ規定ニ依リテ之
ヲ定ム)確定訴訟ハ届出ニ準シテ破產財團ノ配當ヲ受ケ其他破產債權團體ニ加
入スダニコトヲ得ルノ執行名義ヲ發生セシムルヲ目的トス故ニ確定ノ訴ハ届出テ
タル權利ノ原因數額及ヒ順位等ヲ其原因ト爲スヤ當然ナリ故ニ原告ハ債權調
査會ニ於テ演述シタル届出權利ノ原因數額及ヒ順位ニ關スル主張ニ拘束セラ
レ之ト同一ノ主張即チ原因ノ變更スルコトナク又數額順位等ヲ擴張スルコト
ナク調査會ニ於テ有效ニ主張シタルモノト同一ノ主張ヲ確定ノ訴ノ原因ト爲
ササルヘカラス(獨逸破產法第十四六條第四項隨テ該法則ニ通セサルトキハ不
適法トシテ却下セサルヘカラス(獨逸破產法ニ於テハ訴訟ノ受繼ニ依シル確定
訴訟ニ於テハ變更シタル事情ト目的トニ從ヒ當然前訴ノ申立ハ變更セラレ調
査期日ニ於テ主張シタル請求ノ原因數額及ヒ順位等ニ制限セラルモノト爲
シタリ又獨逸破產法第一百四十六條第一項ハ原告シテ此等ノ要件ノ立證ヲ容
易ニ爲サシムルカ爲メニ破產裁判所カ職權ヲ以テ債權表ノ抜萃牘本ヲ原告ニ

委付スヘキ旨ヲ規定シタル異議申立者ニ調査會ニ於テ演述シタル主張ニ拘束セラルゴトナキバ前述シタル所ナリ多數ノ異議申立者アリタルトキハ異議ヲ申立テラシタル債権者ハ此等ノ總申立者ニ對シ共同、又ハ各別ニテ確定ノ訴ヲ提起セサルベカラヌ蓋シ債権者カ破産手續ニ於ケル参加ヲ許與セラルルヨトハ總異議申立者ニ對シ勝訴シタルゴトヲ要スレハナリ債権者カ總異議申立者ニ對シ共同的ニ起訴シタルトキハ各異議ノ同種ナルト否トニ從ヒ同一確定訴訟(民事訴訟法第五〇條)ト爲リ又ハ爲ラナルコトアリ各異議カ同種ナルトキハ唯合一的ニ裁判メルコトヲ得ルヲ以テ合一的確定訴訟ヲ成シ各異議カ異種ナルトキ例ヘハ甲異議申立者ハ届出權利ノ成立乙異議申立者ハ其破産債権者タルノ資格丙異議申立者ハ唯順位ヲ爭ヒタルトキハ合一的確定ノ必要ナキヲ以テ合一的確定訴訟ヲ爲ササルヤ當然ナリ債権者カ總異議申立者ニ對シ各別的ニ起訴シタルトキハ管轄裁判所ハ數箇ノ訴訟ノ併合ヲ命スルコトヲ得(第一〇二七條成ル可ク合併シテ主民事訴訟法第一二〇條)而シテ債権者カ異議申立者中ノ一人ニ對シ勝訴シタルカ爲ミニ破産手續ニ參加スルコトヲ得ヘキ確

定ノ執行名義ヲ得ルモノニ非ナシテ以テ各別訴訟ニ基シタル判決ハ被告ノ異議ノ排斥ヲ言渡シ届出權利ノ確定ヲ言渡スモノニ非ナシ總被告ニ對スル異議排斥判決ノ合計カ届出權利ノ確定ト爲シ又異議申立者一人ノ勝訴ニ歸シタル判決ハ他ノ異議申立者ノ利益ニ於テ其效力ヲ有ス甲異議申立者ハ債権者ト乙異議申立者トノ確定訴訟ニ於テ從參加人トシテ被告乙ヲ補助スルカ爲ミニ附隨スルコトヲ得何トナレハ乙異議申立者ノ異議ヲ正當ナリト認メタル判決ハ甲異議申立者ノ利益ニ於テ效力ヲ有スルカ故ニ甲異議申立者ハ乙異議申立者ノ勝訴ニ付キ權利上利害關係ヲ有スト謂ハサルヲ得サレハナリ(民事訴訟法第五三條但異議ヲ申立テナリシ債権者ハ確定訴訟ニ於テ異議申立者ノ異議ヲ正當ト認メラル判決ニ付キ利害關係ヲ有スルニ拘ハラス從參加人ト爲ルコトヲ得ス蓋シ此種ノ債権者ハ調査會ニ於テ異議ヲ申立テナリシ事實ニ因リ届出債権ヲ攻撃スヘキ權能ヲ喪失シタルモノナレハナリ其他破産者ハ處分無能力者タルヲ以テ確定ノ訴ニ參加スルコトヲ得サルヤ明白ナリ(獨逸破産法ノ解釋トシテハ特別ノ理由ニ依リ破産者カ從參加ヲ爲スコトヲ得ナルハ學者ノ争ハ

サル所ナリ)

確定ノ訴カ未タ終局セサル當リテ破産手續カ停止セラレ(商法第九八二條)又ハ協議契約ニ因リテ終局セラレタルトキハ確定ノ訴ハ其本案ニ於テ目的ノ欠缺ト爲リ其訴訟費用負擔ニ於テ異議ヲ申立テラレタル債権者ト異議申立者管財人カ異議申立者タルトキハ破産者ニ對シテ續行スルコトト爲ル又破産手續カ配當ニ因リテ終局セラレタルトキハ繫屬シタル確定ノ訴ニ何等ノ影響スル所ナシ異議ヲ申立テラレテ訴訟中ニ在ル債権者ニ歸屬スヘキ配當額ハ之ヲ供託シ訴訟カ該債権者ノ利益ニ歸シタルトキハ配當額モ亦該債権者ニ歸屬シ反對ノ場合ニ於テハ該配當額ヲ他ノ破産債権者ニ爾後配當スヘキモノタリ隨テ管財人カ異議ヲ申立タルカ爲メニ異議ヲ排斥スル確定ノ訴ノ相手方ト爲リタルトキハ配當ニ因ル破産手續ノ終局ノ爲メニ相手方タルノ権限ヲ喪失スルコトナシ蓋シ未確定債権者ノ爲メニ供託セラレタル配當額ハ直チニ破産者ニ歸屬スヘキモノニ非サレハナリ(訴訟手續)

(b) 管轄裁判所及ヒ判決手續
獨逸破産法ニ於テハ届出權利確認ノ訴ヲ破産

手續ノ繫屬スル破産裁判所若クハ目的物カ破産裁判所タル區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ之カ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬セシメタリ(獨逸破産法第一四六條第二項)是レ破産ハ一ノ執行の關係ナルヲ以テ獨逸民事訴訟法第八百七十九條、第八百二條(我民事訴訟法第六三五條、第五六三條)ニ於テ配當ニ關スル異議ノ訴カ配當裁判所又ハ其所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬スルト同一ノ法意ニ基ケリ(訴訟ノ受繼ニ依レル確定ニ關シテハ訴訟裁判所又異議訴訟ニ關シテハ民事訴訟法及ヒ特別法ノ規定ニ基キタル裁判所カ管轄スル所ナルヤ言ヲ埃タス(佛蘭西商法)ニ於テハ訴訟事件ノ性質ニ從ヒテ管轄裁判所ヲ異ニセリ破産ニ原因スル爭訟(佛蘭西商法第四四六條以下第六三五條)ハ商事裁判所ノ管轄ニ屬シ契約ノ瑕疵、能力ノ欠損等ニ基ク争訟ニシテ破産ヨリ生セサルモノハ民事裁判所ノ管轄ニ屬シ破産者ノ責ニ任スヘキ犯罪ニ原因スル損害賠償タル債権ニ關シテハ刑事裁判所ハ之カ争訟ヲ管轄ス(佛蘭西商法第四九八條、第五〇〇條第一項、第二項)

我商法ニ於テハ確定ノ訴ハ破産裁判所ノ管轄ニ專屬ス(第一〇二七條、破産裁判

所、民事訴訟法第五六三條準用是レ確定訴訟ノ結果ハ破産手續ニ關係アル又以
テ配當ニ關スル異議ヲ配當裁判所ノ管轄ニ專屬セシメタルト同シク確定ノ訴
ヲ破産裁判所ノ管轄ニ專屬セシメタルナリ此ノ如ク確定ノ訴ニ關スル破産裁
判所ノ管轄ハ專屬ナルヲ以テ當事者カ契約ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得ス然
レトモ破産者ニ異議ヲ申立テスレタル債權者トノ間ニ於テ破産手續開始以前
有效ニ仲裁契約カ成立シタルトキハ該契約ハ尙ホ異議申立者管財人及ヒ各破
產債權者ヲ拘束ス蓋シ管財人及ヒ各破產債權者ノ異議ハ破產者ニ對シテ成立
スル破產的差押權ニ其源ヲ汲ムニ以テ仲裁契約ヲ無視スル權利ハ破產者ト同
シク異議申立者ノ有セタル所ナリト謂ハサルヲ得サレハナリ殊ニ破產債權者
團體ハ破產者ノ一部の承繼人ナルヲ以テ該團體ノ機關トシテ異議ヲ申立ツル
管財人カ仲裁契約ヲ無視スルコトヲ得サルゼ當然ナレハナリ又異議ヲ申立ツ
ラレタル債權者ト異議申立者ハ仲裁契約ヲ締結シテ異議ヲ確定セシムルセト
ヲ得何トナレハ此等ノ者カ亦和解ヲ爲スコトヲ得レハナリ「タキルセリスキ」
「ベニテルゼン」氏等カ斯ル見解ヲ承認スルハ舊タ理ナシ也

獨逸破産法ニ於テハ管轄裁判所カ民事訴訟法其他特別法ノ規定ニ則リテ確定
ノ訴ニ付キ判決ヲ爲シ我商法ニ於テモ亦管轄裁判所カ民事訴訟法ノ準用ニ依
リ判決ヲ爲スコトハ疑カシ故ニ審理上ノ便宜ノ爲メ數箇ノ確定ノ訴ヲ併合シ
〔民事訴訟法第百二十條〕適用商法第一〇二七條成ル可ク合併シテ〔又〕判決ニ
對シ上訴ヲ爲スコトヲ得〔民事訴訟法ノ適用商法第千二十七條但書〕反對推測
然ビトモ獨逸破産法ト異ニシテ佛蘭西商法ヲ参考トシテ例外ヲ設ケタリ其第一
一ハ破産手續ヲ迅速ニ終丁シ且手數ト費用トヲ省略スルノ目的ヲ以テ訴訟手
續上干涉審理主義ヲ採用シ原被兩造ノ辯論ニ重キヲ置カス隨テ當事者雙方期
日ニ出頭セサル場合ト雖モ事件ノ關係ヲ明瞭ナラシムルカ爲タニスル主任官
ノ演述ヲ聽キ〔主任官ノ演述ヲ聽クコトハ要件ニシテ單ニ裁判ヲ爲スノ参考ニ
供スルモノニ非ヌ故ニ之ヲ聽カシシテ爲シタル判決ハ手續違背ト爲ル〕職權ヲ
以テ證據調ヲ爲シ判決ヲ言渡ス而シテ當事者ノ辯論ニ重キヲ置カサル結果下
シテ開席判決ヲ爲スモ之ニ對スル不服申立法タル故障ヲ認メサルコト是ナリ
是は前述シタル破産手續ト訴訟手續タル確定手續トノ併合ナル觀念ニ基ケル

當然ノ結果ナリ其第二ハ債権者集會ニ於テ異議ヲ受ケタル債権者ヲ參會セシメ以テ議決權ヲ全ウセシメ且故ラニ異議ヲ申立テ器計ヲ逞シウセントスル不良ノ徒ナカラシメントカ爲スニ債権者集會前ニ成ルヘク判決ヲ爲シ隨テ裁判所ヲシテ訴訟ノ順序番號等ニ拘泥スルコトナカラシメ若シ債権者集會開始前ニ於テ判決ヲ下スコト能ベヌ又ハ之ヲ下スモ未確定ナルトキハ破産裁判所ヲシテ事情ニ從ヒ集會ニ加入スルノ許否及ヒ金額ノ程度ニ付キ決定ヲ爲シ見込アル債権者ノ爲メニ假確定ノ利益ヲ與ヘ故意ニ異議ヲ申立フルノ弊害ヲ防止ス又金額ヲ定ムルハ商法第千三十六條ノ議決權ニ必要アリ正當ノ債権者ヲシテ相當ノ債權額ニ付キ債権者集會ニ於ケル議決權ヲ全ウセシムルコト是ナリ但前述ノ如ク優先權ヲ有スル債権者ハ優先權アルカ爲メニ普通債権者タルノ資格ナキ者ニ非ナルヲ以テ優先權ノミカ異議ヲ受ケタル場合ニ於テ通常債権者トシテ集會ニ加ヘルノ妨特爲ラサルハ當然ニシテ又優先權ノ運命未タ知ルヘカラサルヲ以テ容易ニ破産者ニ利益アル事項ニ賛成スルノ處ナケレハナリ(第1027條、第1028條、佛蘭西商法第四九九條、第五〇〇條)

届出權利確定ノ訴訟費用ノ負擔ハ民事訴訟法第七十二條以下ノ規定ニ從ヒテ之ヲ定ム而シテ異議ヲ申立テタル管財人ノ負擔スヘキ訴訟費用ハ財團費用ニ屬シ(第1032條第一號獨逸破產法第五九條第一號異議ヲ申立テタル債権者カ勝訴ノ判決ヲ受ケ破產財團ヲ利シタルトキハ不當利得ヲ許サナル民法上ノ原則ニ基キ自己ノ支拂ヒタル訴訟費用ニ付キ破產財團ニ對シ敗訴者ノ負擔義務ニ關係ナク獨立シテ利得額即チ管財人カ訴訟當事者トシテ行動セサルヨリ支出ヲ爲サザリシ金額ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘシ)
(e) 判決ノ效力及ヒ登錄ニ確定ノ訴ニ基キテ届出權利ニ對スル總ノ異議ヲ排斥シタル判決又ハ届出權利ニ對スル異議ヲ理由アリト認メタル判決カ確定シタルトキハ總ヲハ破產債権者ニ對シテ確定判決タルノ效力ヲ有ス(獨逸破產法第一四七條上段是レ破產的關係ノ性質ヨリ生スル當然ノ結果ナリ異議ヲ申立テラレタル債権者カ其總ノ異議申立者ニ對シ勝訴ノ判決ヲ受ケタルトキハ之ニ因リテ異議カ排斥セラレ調査會ニ於テ届出權利カ毫モ異議ヲ申立テラレスシテ確定シタルト同一ノ状態ト爲リ反対ノ場合即チ異議ヲ申立テラレタル

ル債権者カ其或異議申立者ニ對シ敗訴ノ判決ヲ受ケタルトキハ之ニ因リテ破産手續ニ參加スルノ權利ヲ喪失シ異議ヲ申立テタルモ敗訴ヲ言渡サレタル他ノ總チノ破産債権者ヲ利益スルモノタリ「ブーチング氏カスル效力ヲ説明シテ各異議申立者ハ破産財團ヲ代表スルカ故ナリト云ヒタルハ正當ノ見解ニ非ス異議申立者ハ總チノ破産債権者ノ利益ト分離スルコト能ハナル即チ不可分的ニ結合シタル自己固有ノ利益ノ爲メニ異議ヲ申立ツル者ナルヲ以テ異議ヲ正當ト認メタル確定判決カ總チノ破産債権者ノ利益ニ於テ效力ヲ生シ又總チノ異議ヲ排斥シタル爲メ確定判決ハ他ノ異議ヲ申立テナリシ債権者・認諾ト結合シテ總チノ債権者ニ對シ確定力ヲ有スルモノタリ是ヲ以テ總チノ異議ヲ排斥シタル各判決ノ確定以後即チ届出權利ノ確定以後ニ於テ該權利ヲ争ヒ再理セシメンコトヲ目的トスル各手續ハ一事不再理ナル確定判決ノ效力ニ依リ排斥セラレ又同一ノ届出權利ニ對シ數箇ノ異議アリテ之ニ關スル訴訟カ各別ニ繫屬シタルトギハ其一二属スル確定ノ訴ニ基キテ言渡サレタル異議ヲ理由アリト認メタル確定判決ヲ他ノ確定ノ訴訟ニ援用シテ請求ヲ却下セシムルコトヲ

得ヘシ其他確定ノ訴ニ基キ判決ハ總チノ破産債権者ニ對シ效力ヲ有スルヲ以テ調査期日ニ異議ヲ申立ツルコト能ハザリシ債権者ト雖モ該效力ヲ否認スルコトヲ得ス届出權利確定ノ訴ニ基キテ言渡サレタル確定判決ハ破産者ニ對シテ亦效力ヲ有スルヤ否ヤノ問題ニ關シテハ各國ノ立法例同一ナラス獨逸破産法ニ於テハ破産者ニ届出權利其モノノ確定ニ付キ容喙權ヲ認メナルヲ以テ届出權利ヲ確定シタル確定ノ判決ハ破産者ニ對シ届出權利其モノノ確定トシテノ效力ヲ有セス却テ破産的執行權其モノノ確定トシテノ效力ヲ有スルノミ(此效力アルカ故ニ破産手續ニ從ヒテ債權ノ確定シタル債權者ハ破産者ノ財產ニ對シ破産的執行ヲ爲スコトヲ得ルノミ是ヲ以テ債權者カ届出權利ヲ確定シタル判決ニ基キテ破産手續終了以後破産者ニ對シ強制執行ヲ爲スニハ即チ届出權利其モノノ確定トシテノ確定判決ノ效力ヲ有セシムルニハ破産者カ調査期日ニ於テ届出權利ヲ争ハザルカ若クハ之ヲ争ヒタルモ破産者ニ對スル訴訟又ハ破産手續開始以前ニ於テ同一權利ニ付キ破産者トノ間ニ繫屬シタル訴訟手續ノ受繼ニ因リテ破産者ノ争ヲ除去シ債權表ニ之ヲ記入シ且届出權利カ確定

シタルモノトシア同表ニ記入スルユトヲ要スル手續ヲ完了シタル後確定判決ト同シク破産手續終了以後破産者ニ對スル強制執行ノ執行名義ト爲ル(猶逸破産法第一六四條第一四四條第二項但破産者ニ對スル訴訟ニ於テ届出権利カ不當ナリトシテ判決セラレタルトキハ破産手續ニ於テ確定シタルニモ拘ハラス破産手續終了以後ニ於テ破産者ニ對シ何等ノ效力ヲ生スルコトナシ蓋シ破産手續ニ於ケル確定ハ破産手續ノ繼續中ニ於テ破産財團ニ對シ破産的執行ヲ爲スノ效力アル旨ヲ認メタルニ止マレハナリ而シテ斯ル判決アリタル場合ニ於テ破産債権者ハ破産手續ニ從ヒテ受取りタル配當額ヲ破産者ニ返還スヘキヤ否ヤニ付キ學說上爭アリ其第一ハ消極説ニシテ届出権利ニ付キ前示ノ效力ハ破産財團ニ關スル管財人ノ處分ノ如ク破産者カ是認セサルヲ得ナルモノタリ隨テ配當額ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス其第二ハ積極説ニシテ破産者ハ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得蓋シ異議申立者ト異議ヲ申立テラレタル債権者トノ間ニ於ケル確定判決ヲ破産者ニ對抗スルコトヲ得サレハナリト云フニ在り届出権利ニ對スル異議ヲ申立て認メタル確定ノ判決モ亦破産者ノ爲メニ效力

ナシ蓋シ該判決ハ届出権利者ノ破産手續ニ參加スルコトヲ排斥スルニ止マレハナリ異議ノ理由ハ届出権利ノ當否ニ在ラスシテ單ニ破産手續開始以後ニ成立シタルモノナルヲ以テ破産債権ト爲ストノ主張ニ在ルコトアルヲ以テ破産者カ該確定判決ニ基キテ破産手續ヨリ除外セラレタル債権者ニ對シ一事不再理ノ抗辯ヲ對抗スルコトヲ得ス(佛蘭西商法ニ於テハ法律上明文ヲ缺クモ學說上破産者ニ異議申立權ヲ認ムル結果トシテ届出権利ヲ確定シタル確定判決ハ届出権利其モノトシナノ確定力ヲ有シ破産手續終了以後尙ホ破産者ニ對シ無限ニ執行ヲ爲スコトヲ得セシムルニ似タリ異議ヲ申立てトシテ排斥シタル届出權利ハ其排斥ノ形式カ判決タルト不承認訴ヲ提起セシシテ止ミタル場合其モノタルトヲ問ハス破産者ニ對シテ其效力ヲ異ニシタリ届出権利ノ消滅取消(破産者ノ無能力、意思ノ瑕疵等ノ原因ニ基キテ排斥セラレタルモノハ破産者ニ對スルモ何等ノ效力ナシト雖モ佛蘭西商法第四百四十六條乃至第四百四十九條(我商法第九九〇條第九九一條)ニ基キテ排斥セラレタルモノハ破産者ニ對シテ效力アリ)我商法ハ破産者ニ對シ届出権利ヲ確定ニ付キ何等ノ容暎權ヲ認メス

シヲ破産手續ニ於ケル届出權利ノ確定ヲ以テ破産手續終了後破産者ニ對スル無限ノ執行名義ト爲レタリ是レ草案理由書ニ於テ説明スルカ如ク管財人ヲ破産者ノ代理人ト認メタル認見ニ基キタルモノナリ異議ヲ申立ト認メタル確定判決ノ破産者ニ對スル效力ニ關シテハ毫モ規定スル所ナシ理論上獨逸破産法ト同一ニ論決スヘキモノト思考ス(第一〇四九條)

異議ヲ申立テラレタル債權者カ總チノ異議申立者ニ對シ勝訴ノ確定判決ヲ得タルトキハ届出權利カ調査期日ニ於テ異議ノ申立ナクシテ確定シタルト同一ノ狀態ヲ保ツコト爲ル故ニ異議ヲ申立テラレタル勝訴ノ債權者ハ其勝訴判決及ヒ其確定ノ證明書ヲ破産主任官ニ提出シ調査ノ結果ニ關スル債權表及ヒ債權證書ニ於ケル訴訟ノ訂正即チ届出權利確定ノ登録ヲ求ムルコトヲ得第一〇二五條第二項獨逸破産法第一四六條第七項參考此登録ノ效力ハ認定のニシテ設定的ニ非ス蓋シ判決ハ其言渡ニ因リテ效力ヲ生スルモノナレハナリ(獨逸破産法ニ於テハ破産者ニ對シ破産手續ニ於ケル確定權利ニ基キ直チニ破産者ニ對シ強制執行ヲ爲スコトヲ得ル場合ニ限リ該登録ニ他ノ一面ニ於テ設定的

效力ヲ認メタリ破産者カ爭ハレサル届出權利ニ關スル確定ノ判決ヲ債權表ニ登録スルニ因リテ破産者ニ對シ強制執行ヲ爲スコトヲ得ヘシ

之ヲ要スルニ届出權利ハ調査期日ニ於テ異議申立權者ヨリ争ハサル若クハ争ハレタルモ爾後取消アリタルカ又ハ確定ノ訴ニ基キタル判決ニ於テ是認セラレタル場合ニ於テ確定ス未確定債權ト配當トノ關係ニ付スヘ配當ノ説明ニ讓ル條件附債權ハ條件附債權トシテ承認又ハ確定ノ判決ニ因リテ確定ス然ヒトモ條件附債權ハ條件成就ノ際ニ執行の效力ヲ有スルカ故ニ條件成就ノ證明ニハ民事訴訟法第五百一十八條ヲ準用シ管財人之ヲ調查ズ管財人カ條件ノ成就シタルモノヲ成就セサルモノト認メタルトキハ民事訴訟法第五百二十一條ヲ準用シテ管財人ニ對シ確認ノ訴ヲ提起スヘク反對ノ場合ニ於テハ民事訴訟法第五百四十六條ノ準用ニ依ル別除請求權ヲ主張スル者カ同時ニ破産債權者トシテ届出カ爲シタル場合亦然リ何トナレハ債權其モノハ確定スルモ執行其モノハ條件附ナルヲ以テナリ(第九十九條参考)

第一款 破産財團ノ管理及ヒ換價

管財人ハ破産債権者及ヒ破産者ハ爲メニ破産財團ニ屬スル財產ヲ管理シ且之ヲ換價スルコトヲ要ス蓋シ破産財團ノ管理及ヒ換價ハ破産債権者ニ平等的滿足ヲ得セジタルカ爲メニ必要ナル方法ナリ故ニ破産財團ヲ以テ各破産債権者ニ平等的満足ヲ得セシムルヲ目的トスル管財人ノ職務ノ一部分ナルヲ以テナリ如何ナル財產カ破産財團ニ屬スルヤノ問題ハ法律ノ定ムル所ニシテ管財人ノ定ムル所ニ非ス故ニ管財人ハ破産財團ニ屬スル財產ヲ破産財團ニ屬セサル財產トシ又破産財團ニ屬セサル財產ヲ破産財團ニ屬スル財產ト爲スコトヲ得サルヤ當然ナリ然レトモ管財人カ其職務ヲ取扱フニ當リ法律上破産財團ニ屬セル財產ヲ事實上破産財團ニ組入レ又ハ反對ニ管財人カ法律上破産財團ニ屬セサル財產ヲ事實上破産財團トシテ取扱フコトアリ斯ル管財人ノ不適法ナル行為ニ對スル改正手段トシテ先フ管財人カ法律上破産財團ニ屬スル財產ヲ事實上破産財團ニ加ヘサルトキハ自己ノ債権ヲ届出ヲタル各破産債権者ハ管財

人ニ對シ裁判外ノ注意ヲ促スノ外商法第千十三條ノ適用ニ依リ(民事訴訟法第五四四條破産主任官ニ對シテ管財人カ法律上破産財團ニ屬スヘキ財產ヲ破産財團ニ加フヘキ旨ノ裁判ヲ求ムルニトヲ得然レトモ自己ノ債権ヲ届出ヲサル各破産債権者ハ斯ル申立ヲ爲スコトヲ得ス何トナレハ各破産債権者ハ債権ノ届出ヲ爲スニ因リテ破産手續ニ加入スルモノナレハナリ而シテ破産主任官カ破産債権者ノ申立ナタル目的物ノ破産財團ニ屬シ且之ニ組入ルヘキモノト認メタルトキハ管財人ニ對シ之ヲ破産財團ニ組入ルヘキ旨ヲ命セサルヘカラス次ニ管財人カ法律上破産財團ニ屬セサル財產ヲ事實上破産財團ニ組入レタルトキハ目的物ノ破産者ニ屬スルト否トニ依リテ區別セサルヘカラス破産財團中ニ加ハリタル財產カ破産者ノ財產ニ屬スル場合ニ於テ強制執行ノ目的物タルコト能ハサルノ理由ニ基キ破産財團ニ屬セサルモノナルトキハ破産者ハ商法第千十三條ノ適用ニ依リ(民事訴訟法第五四四條破産主任官ニ對シテ目的物ヲ破産財團中ニ組入レタル管財人ノ行爲ニ對シ異議ヲ申立フルコトヲ得破産財團中ニ組入レタル財產破産者ニ屬セサル場合ニ於テハ其財產ヲ有セ

ル者ハ其管財人ニ對シテ取戻權ヲ主張スルモノナリ破産者ハ破産財團中ニ於テ他人ノ財產を加ベリタルカ爲メニ何等ノ權利ヲ有セス道ハ宛モ民事訴訟法ノ強制執行ニ於テ債務者カ第三者ニ屬スル財產ニ關スル差押ニ對シ異議ヲ申立ツルノ權利ヲ有セサルカ如シ而シテ管財人ノ不適法ナル行爲ニ對シ異議ノ申立アラサル場合ニ於テハ破産財團ニ屬スル財產カ破産債権者ノ爲メニ換價セラレス又其反對ニ破産財團ニ屬セサル財產カ破産財團トシテ換價セラルノ述法ナル結果ヲ生ス之カ爲メニ生シタル損害ハ管財人ノ責任ニ歸ス

左ニ破産財團ノ管理及ヒ換價等ヲ分説スヘシ

(一) 破産財團ノ管理 管財人ハ破産ノ目的ノ爲メニ必要ナル管理行爲ヲ爲スノ權限ヲ有ス破産財團ノ管理トハ破産財團ノ減少ヲ豫防スルカ爲メニ破産債権者及ヒ破産者ノ共同利益ニ於テ必要ナル若クハ有益ナル行爲ヲ總稱スルモノニ外ナラス而シテ管財人ノ破産財團ニ關スル管理行爲トシテノ權限ハ單純ニ説明スルコト能バス何トナレハ此權限ハ破産財團ノ種種ナル狀態ニ從ヒテ自ラ異ナラサルヲ得サルヲ以テナリ故ニ法律ハ破産財團ノ管理ニ屬スル二三

ノ權限ヲ例示スルニ止メタリ左ニ之ヲ略述スヘシ第一〇一二條獨逸舊破産法

第一〇七條新破産法第一一七條

(A) 破産財團ノ占有 管財人ハ管理ノ前手續トシテ又保全ノ目的ヲ以テ破産手續ノ開始以後即時ニ破産手續ニ屬スル破産者ノ總財產ヲ占有セサルヘカラス(第一〇一二條第一〇〇四條第一〇〇五條獨逸新破産法第一一七條)占有トハ他人ノ爲メニ所持スルト同一義ニシテ民法上ノ占有ニ非ス(民法第一〇八條管財人カ破産財團ニ付キ破産者及ヒ第三者ノ事實上ノ勢力ヲ排斥シ事實上自ラ管理ヲ爲スコトヲ得ル地位ニ在ル狀態ナリ後見人カ被後見人ノ爲メニスル占有ト同シク他人ノ名ニ於ケル單獨ノ所持ナリ何トナレハ破産ノ目的ハ斯ル所持ノミヲ以テ達スルコトヲ得ヘケレハナリ管財人カ破産財團ニ屬スル財產ヲ占有スルニ際シ該財產ノ占有者タル破産者カ抵抗シタルトキハ執達吏ノ共助ヲ要求スルコトヲ得ヘシ何トナレハ破産手續ノ開始決定ハ民事訴訟法第五百五十九條第一號ノ意味ニ於ケル執行名義ニ外ナラサルカ故ニ執達吏カ該決定ニ基キ管財人ニ占有スルヲ得セシムルノ權限アルヲ以テナリ但此場合ニ於ケ

ル執行ハ財產ノ差押ニ非スシテ却テ破産財團ニ屬スル財產ヲ管財人ニ引渡ス
ヘキ破産者ノ行爲ノ強制ト看做スヘキモノナルヲ以テ取上ケ及ヒ占有ノ移轉
ニ依リテ行ハル民事訴訟法第七三〇條第七三一條獨逸舊民事訴訟法第七六九
條第七七一條又破産財團ニ屬スル財產ノ占有者タル破産者以外ノ第三者カ該
財產ノ引渡ヲ拒ミタルトキハ管財人ハ破産手續ノ開始決定ニ基キ執達吏ノ共
助ヲ以テ占有ノ目的ヲ達スルカ爲メニ強制ヲ爲スコトヲ得ス寧ロ管財人ハ之
カ爲メニ訴ヲ提起セサルヘカラス
管財人ハ破産財團ニ屬スル財產ノミヲ管理ノ爲メニ占有スルノ權限アルニ止
マルヲ以テ破産者ニ屬セサルコト明白ナル財產若クハ強制執行ノ目的ト爲ラ
サル財產即チ破産財團ニ屬セサル財產ハ之ヲ占有スルコト能ハス却テ之ヲ破
產者ノ占有ニ放任セサルヘカラス而シテ此場合ニ於テ管財人カ破産者ノ占有
ニ放任シタル目的ヲ破産者カ處分シタルモ之カ爲メニ管財人ハ毫モ第三者
ニ對シ責任ヲ負フコトナシ何トナレハ管財人ハ斯ル第三者ノ利益ヲ保護スル
ノ義務ナキヲ以テナリ管財人ハ破産財團ニ屬スルヤ否ヤニ付キ疑アル財產ヲ

占有シ以テ該財產ニ關スル破産者ノ處分ヲ豫防セサルヘカラス殊ニ破産宣告
ノ當時破産者ノ占有中ニ在ル財產ハ破産財團中ノ一部分ナリト推定スルヲ以
テ(民法第一八八條)破産財團ニ屬スル物ニ非サルコトノ顯著ナラナルニ於テハ
占有ヲ爲ササルヘカラス但管財人ハ占有シタル財產ヲ爾後權利者ニ任意ニ或
ハ訴訟的ニ取戻權ノ訴ノ結果返還スルヤ當然ナリ
管財人カ破産財團ヲ占有シタルトキハ何人カ破産財團ノ占有權ヲ有スルヤノ
問題ニ關シテハ學者ノ見解ニ岐レタリベーテルゼン「ウキルモースキ」
氏等ノ如キ管財人ヲ以テ破産者ノ代理人ナリト認ムル學者ハ破産者カ管財人
ノ占有シタル破産財團ノ占有權者ナリト主張シ「コレル「ゾキフェルド」氏等ノ
如キ管財人ヲ以テ破産債權者團體ノ代理人ナリト認ムル學者ハ破産債權者團
體ヲ以テ管財人ノ占有シタル破産財團ノ占有權者ナリト主張シタリ予輩ハ管
財人ノ性質ニ關係ナク我商法第九百八十五條ノ解釋トシテ破産者ヲ以テ破産
財團ノ占有權者ナリト主張セント欲ス何トナレハ該條ニ規定シタル權利ノ喪
失ハ權利ノ剝奪ニ非スシテ處分能力ヲ喪失セシムルニ過キス隨テ破産者自ラ

(B) 財產目錄及ヒ貸借對照表並ニ報告書ノ提出、管財人ハ破産財團ヲ占有シタル後即時ニ財產目錄ヲ作成スル職務ヲ負フ(第一〇一四條獨逸舊破産法第一四條新破産法第一一二四條破產者ノ破產宣告ノ當時ニ於ケル財產的狀態ヲ明確ニシテ破產手續ノ成績ヲト知スルコトヲ得セシムルカ爲メニ又管財人ノ責任ヲ明白ナラシムルカ爲メニハ先づ以テ破產宣告ノ當時ニ於ケル現狀ヲ詳細ニ明記シ後日證明ノ材料ト爲スヲ必要トス管財人ノ財產目錄作成ノ義務ハ此立法上ノ目的ノ實行ニ外ナラス財產目錄ハ破產宣告ノ當時ニ於ケル破產者ノ財產的狀態ノ寫真ナリ數額ト價額トヲ表示シタル破產者ノ總財產積極的及ヒ消極的財產ニ關シテ精整シタル明細書ナリ故ニ管財人ハ破產財團ニ屬スルト否ト動產ナルト不動產ナルト債權ナルト物權ナルトヲ問ハス破產者ニ屬スル總財產消極的財產ヲ包含スヲ目錄ニ記入シ且其價格ヲ明示セサルヘカラス財產

ノ價格ヲ明示スルニ付キ管財人ノ意見ニ於テ必要ナル場合ハ管財人カ職權上鑑定人ヲ選定シ且之ヲ鑑定セシムルコトヲ得管財人カ鑑定人ニ依ラスシテ財產ノ價格ヲ認識スルコトヲ得ルトキハ認定價格殊ニ財產ニ市價又ハ取引價格アルトキハ該價格ヲ明示スルコトヲ得白耳義商法第四八八條獨逸新破産法第一二三條管財人ノ私ヲ豫防シ且公平ヲ保ツカ爲メニ法律ハ財產目錄ノ作成ニ付キ裁判所職員裁判所書記若クハ警察官ノ立會ヲ必要トシ事務ノ取扱上必要ナルトキハ破產者ヲモ立會ハシム而シテ檢事ハ犯罪ノ有無ヲ搜查スルカ爲メニ職權ヲ以テ財產目錄ノ作成ニ立會フコトヲ得

財產目錄ノ作成者即チ管財人ハ破產財團ノ占有前ニ財產目錄ヲ作成スヘキ否ヤニ關シテハ法文上甚タ曖昧ナルヲ以テ論爭ノ餘地アルモノトス商法第千五條ニ所謂管財人カ債務者ノ財產ヲ財產目錄ニ載セ且之ヲ占有シタルトキノ明文ニ依レハ管財人ハ財產目錄作成後財團ノ占有ヲ爲ス如ク又財產目錄作成後財團ノ占有ヲ爲シムルヲ以テ管財人ノ私ヲ豫防スルヲ適當トスルカ故ニ管財人カ破產財團ノ占有以前ニ財產目錄ヲ作成スヘキモノト論決スルヲ正當ト

爲スニ似タリト雖モ商法第千十二條ニ所謂管財人ハ破産宣告後即時ノ明文ニ依レハ管財人カ財產目錄ノ作成前財團ヲ占有フ爲スコトヲ明白ニシテ又財團ノ散失ヲ豫防スルニハ可成る急速ニ財團ヲ占有スルヲ以テ適當トスルカ故ニ管財人カ財產目錄作成前ニ財團ヲ占有スヘキモノト論決スルヲ正當ト信ス獨逸破産法ハ後説ニ依ルモノニ似タリ予輩ハ我商法ノ解釋トシテハ嘗テ前説ヲ主張シタリト雖モ本學年ニ於テハ之ヲ捨テタリ作成シタル財產目錄及ヒ作成當時ノ状態ヲ表示スヘキ調書(商法第千十四條第三項ニ所謂之ニ關スル調書ト)ハ如何ナル書類ヲ指示スルヤ法文上頗ル曖昧ナリ我商法起草者ノ説明ニ依レハ財產目錄作成ノ際ニ生シタル事實及ヒ陳述ヲ記載シタル調書ヲ指示スルモノノ如シ獨逸新破産法第百二十四條ニ依レハ管財人カ封印又ハ解封ニ付キ作成シタル調書ヲ指示スヘキモノノ如シノ原本ハ管財人ノ手ニ存シテ自己ノ職務タル管理上ノ用ニ供シ認證膳本ハ裁判所ニ備ヘテ公衆ニ示シ且利害關係人ニ對シテ破產の事情ヲ知ルヲ得セシメ債權者ハ管財人ノ管理ノ當否ヲ認證膳本ニ基キ間接ニ判断スルコトヲ得又破産終局ノ

方法ニ付ギ利益アル判断ヲ爲スコトヲ得公衆ハ該膳本ニ基キ破產者ノ財產上ノ状況ヲ知リ破產者ト取引スルノ完全ナルヤ否ヤヲ確認スルコトヲ得又有罪破產ト認メタルトキハ告發ヲ得スコトヲ得第一〇〇四條第一〇〇五條此等ノ物ハ直チニ財產目錄ニ載セ破產者ノ財產ヲ財產目錄ニ載セ獨逸新破産法第一三條、第一一四條、第一一五條、新破産法第一一二三條、第一二五條、佛商法第四八〇條、第四八二條管財人カ債務者ノ財產ヲ財產目錄ニ載セ且之ヲ占有シタルトキハ其效果トシテ(一)破產者ノ監守ヲ免ス、何トオレハ破產者カ財產ヲ隠匿スルノ恐ナケレハナリ(二)動產ノ封印ヲ解ク、何トナレア財團ノ紛失ノ恐ナキヲ以ナリ尙ホ此點ニ關シテハ後日ノ説明ヲ參照スヘシ第一〇〇四條第一〇〇五條管財人ハ商法第九百七十九條ニ基キ破產者ノ提出シタル届書及ヒ貸借對照表ヲ破產主任官ノ定メタル三十日内ノ期間ニ調査シ破產ニ關スル一切ノ状況即チ破產ノ原因、犯行ノ有無、破產財團ノ過不足等ヲ取調ヘ其報告書ヲ作成シ之ヲ破產主任官ニ提出スルノ職務ヲ負ヒ破產主任官ハ該報告書ヲ或ハ修正シ或ハ補充シ以テ検事ニ送致ス是レ破產事件ニ於ケル検事ノ職務ヲ完タセシムルカ

爲メナリ第九八四條管財人カ報告書ヲ直接ニ検事ニ提出セシテ主任官ニ提出スル理由ハ(一)主任官カ管財人ヲ監督スル職務ヲ委スル便宜アルト(二)不足ヲ補ヒ誤謬ヲ正スノ便宜アルニ存ス而シテ管財人ハ別ニ報告書ヲ作成シテ之ヲ提出シ公衆ニ對シ破産ニ關スル詳細ナル事情ヲ知ラシムルカ爲メニ裁判所具備ヘ公衆ノ展覽ニ供セサルヘカラス(第一〇一六條)佛蘭西商法第四八二條管財人ハ破産者カ貸借對照表ヲ差出ササル場合ニハ自ラ之ヲ作成スルノ職務ヲ負フ是レ財產目錄ノ作成ニ關スル理由ト同一ノ理由即チ破産者ノ財產的現狀ヲ明瞭ニシ且破産手續ニ關スル成績ヲ豫知スルコトヲ得セシムル目的ノ實行ニ基ケリ(第一〇一七條)管財人ハ貸借對照表ヲ作成シテ之ヲ公衆ニ對照スル時其人ハ商法第千五條第二項ニ依リ自己ニ交付セラレタル帳簿ニ基キ或ヘ破産者其他ノ家族ニ任意上問合セ又ヘ主任官ニ申立テ訊問ヲ爲シシヌタルニ因リ得タル諸般ノ事情ヲ参考トシ(第一〇一二條)第一〇一二條管財人ニ屬スル總財產殊ニ動産不動産有價證券現金等及ヒ借方ニ屬スル總額殊ニ別離請求權別除請求

權財團上ノ請求權其他破産者ノ債權並ニ債務ノ履行期破産者メ負ヒタル共同債務關係及ヒ之ニ基キ有スル求償權ヲ表示シテ貸借對照表ヲ作成セサルヘカラス而シテ管財人ハ該貸借對照表ヲ報告書ト共ニ破産手續ノ指揮監督者タク破産主任官ニ提出シ又別ニ貸借對照表ノ認證牘本ヲ作リ之ヲ裁判所書記課ニ備ヘ公衆ノ展覽ニ供セサルヘカラス破産主任官ハ管財人ヨリ提出シタル貸借對照表ヲ報告書ト共ニ檢事ニ送致セサルヘカラス何トナレハ報告書ノミニテハ未タ全ク其用ヲ爲サナレハナリ(第一〇一六條)佛蘭西商法第四七六條獨逸舊破産法第一一四條同新破産法第一二四條同商法第一〇一六條末項ニテノタ貸借對照表ヲ檢事ニ送致スルハ解スヘカラナルノ規定ト謂ハサルヲ得ス何トナレハ貸借對照表ハ破産主任官ノ職務即チ指揮監督上ニ於テ必要ナルモノナレハナリ又同條ニ所謂貸借對照表トハ管財人ノ作成シタルモノニ限ルモノナリヤ甚タ疑アリ獨逸破産法ニ依レハ認證牘本ヲ裁判所書記課ニ提出シテ公衆ノ展覽ニ供スルノミ佛蘭西商法モ亦然リ貸借對照表ヲ檢事ニ送致スルカ如キ規定ナシ予輩ハ立法上ノ見解トシテハ前

ニ示シタル如ク不必要トシテ修正ノ際ニ削除セラルトト信ス何トナレハ
檢事カ第九百八十四條ノ規定ニ基キテ其職務ヲ完ウヌルコトヲ得レハナリ

各利害關係人ハ其費用ヲ以テ財產目錄貸借對照表等ノ原本ヲ求ムルコトヲ得

(民事訴訟法第二二四條)

(C) 保全處分 即チ破產財團ノ管理ノ補助トシテ法律ハ左ノ事項ヲ規定セリ

(イ) 拂渡差押命令 破產宣告ト共ニ破產者ニ對シテ債務ヲ負ヒ又ハ破產財團ニ屬スル物ヲ占有スル者ハ破產者ニ債務ノ支拂ヲ爲シ又ハ占有物ノ交付ヲ爲ナスシテ却テ管財人ニノミ爲スヘキ旨ヲ公告シ又財團ニ屬スル物ノ占有者ハ其占有及ヒ其占有物ニ付キ優先權ヲ有スルトキハ其權利ヲ破產裁判所ノ定タル期間内ニ破產主任官ニ對シ届出ツヘキ義務ヲ課セラル此命令ヲ拂渡差押命令ト謂フ(第一〇〇六條第一項第九八〇條第四號第五號第一〇二三條第一項、獨逸新破產法第一一八條拂渡差押命令ノ前半ハ法律上獨立的效力ヲ生スルモノニ非ス却テ唯破產者ニ對シ法律上ノ錯誤ニ基キ占有物ノ交付又ハ債務ノ支拂ヲ爲サナルコトヲ注意シタルノミ何トナレハ破產財團ニ屬スル財產ノ破產

的差押ハ破產手續開始決定ニ依リテ發生シ拂渡差押ノ施行ニ關係ナケレハナリ是ヲ以テ拂渡差押命令ヲ缺クト雖モ破產財團ニ屬スル物ヲ破產者ニ交付シ及ヒ破產財團ニ屬スル債權ノ支拂ヲ破產者ニ爲スカ如キハ法律上許ス所ニ非ナルナリ拂渡差押命令ノ後半ハ破產財團ニ屬スル財產ノ占有者ニ對シ届出ヲ爲スヘキ義務ヲ負ハシムル法律上獨立シタル效力ヲ發生ス隨テ此義務ハ拂渡差押命令ノ公告ナキ以上ハ發生セス破產財團ニ屬スル財產ノ占有者カ拂渡差押命令アリタルニモ拘ヘラス屆出義務ヲ履行セス又ハ届出ヲ遲延シタルトキハ之ニ基キテ生シタル損害例ヘハ換價益ニ配當ノ遲延ニ因リテ生シタル特別ノ費用届出ノ遅延ニ因リテ占有物カ受クタル價格減少ニ基キテ生シタル損害ヲ賠償セサルヘカラス此損害賠償權ハ破產債權者團體ニ屬スル權利ニシテ其機關タル管財人ニ依リテ行使セラレ隨テ破產手續終局以後各債權者ノ主張スルコト能ハナルモノナルヤ言ヲ俟タス届出義務ノ不履行ニ基ク損害賠償義務ノ成立ハ届出義務者カ拂渡差押命令ノ發セランタルコトヲ知リタルヲ要件トシテ何トナレハ損害賠償義務ハ義務者ニ對シテ責ムヘキ事情ニ基クヲ原則トシ

且我破産法ハ此原則ニ反スル意思ヲ明示セサレハナリ届出義務者カ拂渡差押命令アリタルコトヲ知レルキ否ケナ立證ハ何人カ舉タル所ナルヤノ問題ニ關シテハ獨逸ノ法學者間ニ於テ大ナル論争アリズキフニド「ザルヘ」ハ獨逸新破産法第八條ハ特別ノ場合ニ於ケル推定ニシテ又公告ニ依リテ届出義務者タ拂渡差押命令ヲ知リタルモノトノ法律上ノ推定ナキヲ以テ管財人ハ争アル場合ニ於テ届出義務者カ其義務ノ發生原因タル拂渡差押命令アリタルコトヲ知リタル旨ヲ主張シ且之ヲ立證セサルヘカラズト論決シウヰルモ一スキシ「ベートブルゼン氏等ハ破産宣告ハ其公告ニ依リテ破産者ト取引ヲ爲シタル者ニ對シ事實上述ニ認識セラルモノナリ拂渡差押命令モ亦之ニ同シト謂ハサルヲ得ス何トナレハ此命令ハ通常破産宣告ト同時ニ公告セラルモノナレハナリ隨テ届出義務者カ拂渡差押命令アリタルコトヲ知リタルノ事實ハ立證セラルヲ要セス届出義務者ノ損害賠償義務ハ斯ル立證ナクシテ法律上發生スルモノナリ然レトモ破産財團ニ屬スル財產ノ占有者ヲ破産者ニ對シ支拂ヲ爲シタル債務者ヨリ(獨逸新破産法第四八條酷待スルハ何等ノ理由ナキヲ以テ獨逸新破産法

第八條ノ準用トシテ届出義務者ニ拂渡差押命令アリタルコトヲ知ラサル旨ノ反證ヲ舉タルコトヲ許スヲ得ルモノトスト論決シタミ獨逸新破産法第一一九條予輩ハ我破産法ノ解釋トシテハ後説ヲ正當ト認ム何トナレハ若シ然ラスシハ拂渡差押命令ノ公告ハ法律上其效用ヲ有セサルヲ以テナリ

(ロ) 目的物ヲ占有シタル別除權者ノ提示義務別除權ノ目的物ヲ占有スル別除權ヲ有スル債權者ハ管財人ニ對シテ其占有ヲ届出ツヘキ義務ヲ負フノミナラス管財人ノ求ニ因リ之ニ檢閱ノ爲ヨニ目的物ヲ提示シ引渡ニ非ス且其評價ヲ許スヘキ義務ヲ負フ(第一一〇一二條獨逸破産法第一二〇條)是レ管財人ハ別除權ノ目的物ヲ賣却シ且賣得金ヲ受取破産財團三入ルベキ權限ヲ有ス隨テ價格ヲ確知スルノ必要アルヲ以テナリ而シテ別除權者カ義務ヲ履行セサルトキカ管財人ハ通常ノ訴訟手續ニ依レル訴ヲ以テ其義務ノ履行ヲ強制スルコトヲ得ヘシ(獨逸新破産法第一一〇一二條)又ハ被破産者ハ申立ニ因リ其債權者ハ管財人ニ對シテ其請求權を主張スル事由又ハ被破産者ハ申立ニ因リ其債權者ハ管財人ニ對シテ其請求權を主張スル事由

信局等ノ義務ヲ變更スル事ノニ非ざ然レトモ法律ハ破産財團ニ屬スル財產ヲ
發見スルカ爲メ管財人ニ破産者ノ實情ヲ確知セシムルカ爲メ破産手續ノ開
始以後職權ヲ以テ又ハ管財人ノ申立ニ因リ破産者ニ宛テタル電信書狀其他ノ
送達物ヲ管財人ニ交付スヘキコトヲ郵便局及ヒ電信局其他ノ運送取扱所ニ對
シ命令スルコトヲ得シシメタリ(第一〇〇六條第三項第五項憲法第二六條此命
令ハ裁判所カ職權ヲ以テ郵便局及ヒ電信局等並ニ管財人ニ送達セサルヘカラ
ス(民事訴訟法第二四五條準用此命令ノ送達ニ因リテ郵便局及ヒ電信局ハ該命
令ヲ遵守スヘキ職務ヲ負ヒ其他私設運送取扱所ハ該命令ヲ遵守スヘキ義務ヲ
負フ何トナレハ裁判上ノ命令ハ裁判上ノ差押ト同シクーノ義務ヲ發生セシム
ルヲ以テナリ隨オ私設運送取扱所カ此義務ニ違反シタルトキハ之ニ基キ生シ
タル損害ヲ賠償スルノ責任ヲ負フ
管財人ハ此命令ニ依リ破産者ノ立會ヲ要セシムラ送達物ヲ開封
スルノ權ヲ有ス是レ前ニ示シタル理由ヨリ生スル當然ノ結果ナリ而シテ破産
者ハ送達物ノ檢閱ヲ管財人ニ求メ又其趣旨即チ内容カ破産財團ニ關係ナキト

特別命令ハ當然其效力ヲ喪失シ特別ニ執行裁判所ノ決定ヲ要スルコトナク債
権者ノ申立ニ因リ執行ヲ續行スルモノタリ前示ノ期間經過後受訴裁判所ノ裁
判特別命令アリタルトキハ執行裁判所ノ特別命令ノ失效ニ關係ナク民事訴訟
法第五百五十條第二號ノ規定ニ從ヒ將來ニ向ヒテ其效力ヲ生ス執行裁判所ノ
裁判カ抗告ノ結果トシテ消滅シタルトキ亦然リ
特別命令ニ關スル受訴裁判所並ニ執行裁判所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之
ヲ爲ス急速處分ヲ爲スノ必要ニ因ス故ニ民事訴訟法第五百五十八條ニ從ヒ
テ當事者ハ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ(第五四七條第三項獨
逸舊民事訴訟法第六八八條第三項受訴裁判所ハ異議ノ訴ニ付キ判決ヲ爲ス場
合ニ於テ其發シタル特別命令ヲ認可シ變更シ又取消スコトヲ得ルハ前述シタ
ル所ナリ前示ノ法則ハ執行處分ノ取消ニ付キ保證ヲ立テシムルコトヲ要セ
ル旨ノ差異ヲ以テ第三者者ノ強制執行ニ對スル異議ノ訴ニモ亦適用セラル(前述
ノ説明参考)(第五四九條末項)
(C) 執行ヲ免ルル爲メ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタル旨ヲ記載シタル公正證

明書ノ提出、執行ノ停止又ハ取消カ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトニ繫ル場合ニ於テ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタルコトニ付キ信用アル公正ノ證明書ヲ提出シタルトキハ強制執行ヲ停止シ又ハ之ヲ制限セサルヘカラス第五五〇條第三號第五〇〇條第五一二條第五〇五條第二項、第五二二條第五四七條乃至第五四九條蓋シ執行ノ停止又ハ制限ニ付テノ條件カ到來シタルヲ以テナリ(第五五〇條第三號獨逸舊民事訴訟法第六九一條第三號)

(D) 執行スヘキ裁判(判決、執行命令、抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判)成立後又ハ其他ノ執行スヘキ債務名義ノ成立後(裁判上ノ和解又ハ公證人作成ノ公正證書)債務者カ債權者ニ對シ辨済ヲ爲シ又ハ債權者ヨリ義務履行猶豫ノ承諾ヲ受ケタル旨ヲ記載シタル公正證書又ハ私署證書ノ提出、斯ル證書ヲ提出シタルトキハ執行ヲスコトヲ得ス又ハ執行ヲ猶豫スヘキモノナルヲ以テ執行ノ停止又ハ其制限ヲ爲スヘキヤ當然ナリ法律ハ單ニ「證書ト明言スルヲ以テ債權者カ債務者ニ交付シタル私署證書ヲモ包含スルモノト謂ハサルヘカラス蓋シ債權者カ債務者ニ交付シタル私署證書ハ其信用ノ程度ヲ公正證書ト

同シウスルヲ以テナリ民事訴訟法第六百一條ニ規定シタル轉付命令ハ債權者ノ權利ヲ消滅セシムルモノナルヲ以テ該命令ニ關ニル書面ハ債權者カ辨済ヲ受ケタル旨ヲ記載シタル證書ト謂フコトヲ得ヘシ債務者ハ疏明其他ノ方法ヲ以テ執達吏ニ對シ證書ノ真正ナルコトヲ證セサルヘカラス若シ債權者カ證書ノ真正ヲ爭ヒタルトキハ執達吏ハ執行ヲ續行セサルヘカラス何トナレハ辨済又ハ履行猶豫ニ關スル證書ニシテ適當ノ證明ナク又ハ債權者ノ争ニ係ルトキハ執行ヲ停止シ又ハ制限スルニ適當ナルモノト謂フコト能ハサレハナリ(第五五〇條第四號、獨逸舊民事訴訟法第六九一條第四號)

(E) 債權者カ破産宣告ヲ受ケタルトキ、破産財團タルヘキ債務者ノ財產ニ付キ破産手續ノ開始アリタルトキハ其繼續中該財產ニ對シ破産債權者各箇人ノ利益ノ爲メニ強制執行ノ續行(開始ハ勿論)ヲ爲スコトヲ得ス(商法第九八六條故ニ執行機關ハ執行ヲ停止セサルヘカラス然レトモ執行カ別除權若クハ取戻權ノ執行トシテ取扱ハルヘキモノナルトキハ此限ニ在ラス何トナレハ此等ノ権利ハ破産手續ニ依ラスシテ主張スルコトヲ得ヘキモノナレハナリ)

(二) 效果　強制執行ノ停止及ヒ其制限ハ唯強制執行ノ續行ヲ止ムルノミ之カ
爲メニ既ニ發生シタル執行行爲ヲ存在セサルモノト爲スヲ得ス隨テ債權者ノ
差押權ハ依然存續ス而シテ前述シタル(A)及ヒ(B)ノ場合ニ於テハ執行機關ハ唯
リ其行動ヲ停止スルノミナラス既ニ爲シタル執行處分執行行爲ノ結果ヲモ取
消ナルヘカラス差押權ノ效力ノ排去ノ如キ(何トナレハ此場合ニ於テハ債務
名義ノ執行力ハ確定的ニ除去セラレタレハナリ)(B)ノ場合ニ於テハ裁判所カ其
裁判ヲ以テ從前ノ執行行爲ノ取消ヲ命シタルトキニ限リ(從前ノ執行行爲ノ取
消トハ執行處分ノ取消ヲ指示スルモノタリ)第五〇〇條、第五一二條、第五二二條、
第五四七條第二項、第五四九條末項等参考之カ取消ヲ爲シ反對ノ場合ニ於テハ
既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持ス何トナレハ(B)ノ場合ニ於ケル停止ハ執行
ノ一時ノ停止ナレハナリ(D)ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持
セシムヘク即チ既ニ爲シタル執行處分ハ債權者カ執行委任ヲ取下タルカ若ク
ハ執行處分ノ取消ヲ命スル執行シ得ヘキ裁判ノ正本ノ提出アルマテ其效力ヲ
有スルモノトス債權者カ執行委任ヲ取下ケヌシテ却テ執行ノ續行ヲ爲サント

スルニ當リテハ債務者ハ管轄裁判所ニ對シ強制執行ヲ一時停止スヘキコト又
ハ之ヲ許サナル旨ノ裁判ヲ求メ其正本ヲ執行機關ニ提出スルコトヲ得ヘシ(第
五四四條第一項、第五四五條執達吏其他ノ執行機關カ不當ニ執行處分ノ取消ヲ
拒ミ又ハ之ヲ承認シタルトキハ民事訴訟法第五百四十四條ニ依リ執行裁判所
ノ救濟ヲ求ムルコトヲ得ルヤ言ヲ缺タス(第五五一條、獨逸舊民事訴訟法第六九
二條(E))ノ場合ニ於ケル效果ハ破産法ノ定ムル所ニ依ル

(三) 手續　強制執行ノ停止又ハ制限ノ爲メニ適法ナル書面ヲ提出(交付ハ必要
ニ非スシタル者アルトキハ之ヲ債權者ニ通知スヘシ何トナレハ債權者ハ之ニ付キ大ナ
ル利害ノ關係アレハナリ執達吏カ適當ナル書面ノ提出アリタルニモ拘ハラス
強制執行ノ停止又ハ制限ヲ拒絶シタルトキハ提出者タル債務者又ハ第三者ハ
民事訴訟法第五百四十四條ニ基キ執行裁判所ノ裁判ヲ求ムルコトヲ得ヘク又
執達吏カ不當ニ強制執行ノ停止又ハ制限ヲ爲シタルトキハ債權者亦同條ニ基

キ執行裁判所ノ裁判ヲ求ムルコトヲ得ヘシ
停止又ハ制限セラレタル強制執行ノ續行ニ關シテハ法律ハ何等ノ明文ナシ然
レトモ強制執行ノ停止又ハ制限ノ原因カ裁判ナルトキハ第五五〇條第一號乃
至第三號當然強制執行ノ續行ヲ命スル裁判ヲ要スヘシ之カ爲ミニ新ナル執行
文ノ付與ヲ要セス但民事訴訟法第五百四十六條末項及ヒ第五百四十九條末項
ノ規定ニ基キ執行裁判所ノ特別命令ヲ認可スル受訴裁判所ノ裁判ヲ提出スヘキ
カ爲ミニ相當期間ノ定アル場合ニ於テハ該期間ノ徒過ニ因リ又強制執行ノ續
行カ債權者ノ保證ヲ立ツヘキ條件ニ繫リタルトキ第五〇〇條第五一二條第五
四七條第五四九條ハ債權者カ執行機關ニ保證ヲ立タルコトヲ之ニ付テノ公
正ノ證明書ヲ提出シテ證明シ且其證本ヲ相手方に送達シタルコトヲ證明シタ
ルニ依リテ(第五二九條準用強制執行ヲ續行スルモノタリ又強制執行ノ停止若
クハ其制限ノ原因カ履行ノ猶豫第五五〇條第四號)ナルトキハ履行ノ猶豫ニ期
限アルト否トニ從ヒテ區別ヲ爲シ猶豫ニ期限ナキトキハ債權者カ自己ノ欲ス
ル時ニ於テ執達吏ニ對シ新ニ強制執行ヲ續行スヘキ旨ノ申立ヲ爲スニ因リテ

強制執行ヲ續行シ又猶豫ニ期限アルトキハ執達吏ハ通常期限經過ノミニ因リ
債權者ノ申立ヲ要スルコトナク強制執行ヲ續行スルコトヲ得ヘシ

第三編 手續ノ進行

強制執行手續ノ進行ハ之ヲ分チテ強制執行ノ著手手續強制執行手續ノ開始及
ヒ強制執行ノ實施手續強制執行ノ開始前手續強制執行ノ開始及ヒ終了ノ二ト
ス

(一) 強制執行ノ著手手續ハ債權者カ受訴裁判所ニ對シ執行文ノ付與即チ強制
執行命令ヲ求ムル申立ヲ爲スニ因リテ始マルモノトス債權者カ強制執行ヲ爲
スニ必要ナル前提要件カ具備スルカ爲ミニ行フ行爲殊ニ債務名義ヲ得ントシ
假執行宣言ヲ求ムル申立ヲ爲シ執行判決ヲ求ムル申立ヲ爲シ判決確定ノ證明
書ヲ求ムル申立ヲ爲スカ如キ行爲ハ強制執行手續ヲ開始スルモノニ非ス何ト
ナレハ這ハ唯強制執行ノ準備手續ニ外ナラサレハナリ
執行文ノ付與ヲ求ムル申立ノ形式ハ申請タルヲ原則トシ訴タルヲ例外トス談

申立ニ關スル裁判ハ單純ナル場合ニハ裁判所書記カ或ハ單獨ニ或ハ裁判長ノ命ノ下ニ於テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニハ裁判所カ決定ノ形式ヲ以テ或ハ判決ノ形式執行文付與ノ訴アリタルトキヲ以テ之ヲ爲ス該裁判ニ對スル攻擊方法ハ裁判ノ形式ニ從ヒテ各異ナレリ裁判所書記ノ處分ニ對シテハ其所屬裁判所ニ對シ處分變更ノ要求ヲ爲スニ因リ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スニ因リ又判決ニ對シテハ控訴ヲ提起スルニ因リテ之ヲ攻擊スルコトヲ得ルヤ前述ノ如シ執行文ヲ付與セラレタルトキハ強制執行命令ノ發セラレタルモノニ外ナラサルヲ以テ該命令ノ實施手續ノ存スルハ當然ナリ

(二) 強制執行ノ實施手續ハ債權者カ執行機關ニ對シ強制執行ヲ開始スヘキ旨ヲ求ムル申立ヲ爲スニ因リテ開始スルモノトス故ニ(執達吏、カ執行機關タル場合ニ於テハ債權者ハ職權アル執達吏ニ裁判所構成法第九七條執行力アル正本ヲ交付シテ債權者ノ希望スル強制執行ノ方法ニ付キ其職權ヲ行使スルコトヲ求ム執達吏ハ該申立ニ付キ土地上又事物上職務ヲ取扱フヘキ權限アルカ強制執行ノ實施ニ缺クヘカラサル要件ノ存スルヤ否ヤヲ調査シ其結果不適法ナ

リト認メタルトキハ執行委任ヲ拒マサルヘカラス債權者ハ該執行委任拒絶ニ對シテ執行裁判所ノ裁判ヲ求メ又必要ノ場合ニハ該裁判ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得(第五四三條、第五四五條第二項、第五五八條)^(ロ)執行裁判所カ執行機關タル場合ニ於テハ債權者ハ執行力アル正本ヲ提出シ且口頭又ハ書面上ノ申請ヲ以テ其希望スル執行方法ヲ表示シテ強制執行ノ實施ヲ求メナルヘカラス執行裁判所ハ該申請ニ付キ裁判ヲ爲スニ當リテ相手方ヲ審訊スルハ原則上任意タリ(第五百九十七條ハ唯一ノ例外ナリ)債權者ハ其申請ヲ却下シタル執行裁判所ノ裁判ニ對シ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得但新事實ニ基キ更ニ實施手續開始ノ申請ヲ爲スコトハ即時抗告ヲ爲サツリシ事實ノ爲ミニ妨ケラレスハ受訴裁判所カ執行機關ナル場合ニ於テハ債權者ハ受訴裁判所ニ對シ執行力アル正本ヲ提出シテ其希望スル執行方法ヲ表示シテ強制執行ノ實施ヲ申請セサルヘカラス(第七三五條)其審訊ノ形式ハ裁判所ノ意見ニ從ヒテ書面上ノ審訊タルニトアリ或ヘ口頭上ノ審訊タルコトアリ受訴裁判所ノ裁判ニ對シテハ

即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得第五五八條。強制執行ノ実施即チ強制執行其モノハ執行機關カ債権者ノ申立ニ基キ債務者ニ對シ執行行爲ヲ爲シタルトキニ於テ開始セラルルモノトス故ニ(1)執達吏カ執行機關ナルトキハ差押フヘキ有體動産ヲ占有シ(第五五六條、第五六七條、第六〇三條引渡スヘキ物件ヲ債務者ヨリ取上クルトキニ於テ強制執行ヲ開始シ第73〇條(ロ)執行裁判所カ執行機關ナルトキハ執行裁判所カ債権其他ノ財産差押命令ヲ發シタルトキ(第五九八條、第六一四條、第六二五條又ハ不動産ノ強制執行ヲ命シタルトキニ於テ強制執行ヲ開始シヘ受訴裁判所カ執行機關ナルトキハ該裁判所カ債権者ノ申立ヲ認メタル決定ヲ口頭辯論ニテ相手方ニ審訊シタル否トニ從ヒテ言渡シ又ハ職權送達シタルトキニ於テ強制執行ヲ開始ス強制執行開始ノ時期ハ債務者及ヒ第三者ノ異議ノ訴ノ能否(第五四五條、第五四九條)遺產ニ對スル強制執行續行ノ能否(第五五二條等)ノ問題ニ付キ重大ナル關係ナリ。

一旦開始シタル強制執行ハ其終了マテ之ヲ續行シ第三者及ヒ債務者ノ異議其

他執行ノ方法ニ對スル異議等ノ爲ミニ當然續行ヲ妨ケラルモノニ非サルコト前述ノ如シ而シテ強制執行ハ各執行處分ノ效果ナキ旨ノ確定債権者ノ差押權拋棄(差押ノ解放取立權)ノ棄棄第六一二條債権者ノ全部又ハ一部ノ満足執行ノ目的物カ債権者ニ完全ナル満足ヲ供セサルカ如キ享有ニ因リテ終了ス故ニ(イ)執達吏カ執行機關ナルトキハ執達吏カ執行上ノ満足ニ供スル金錢ヲ受領シ引渡スヘキ物件ヲ占有シタル時ニ於テ強制執行ヲ終了セヌシテ却テ執達吏カ之ヲ債権者若クハ其代理人ニ交付シタル時ニ於テ強制執行ヲ終了ス是レ蓋シ執達吏カ債権者ノ純然タル受任者ニ非シテ却テ法定ノ範圍ニ於テ債権者ノ利益ノ爲ミニ之ヲ代表スル官吏タルノ法理ヨリシテ明瞭ナルノミナラス民事訴訟法第五百九十三條及ヒ第六百二十六條ノ法意ヨリシテ債務者カ執達吏ノ現金取立又ハ賣得金領收第五七四條第二項、第五七九條ニ基キ免責スルニモ拘ハラス尙ホ訴訟上強制執行ノ完全ニ終了セナルコト瞭然ナレハナリ(ロ)執行裁判所カ執行機關ナルトキハ債権者ハ轉付命令ヲ發スルコトニ因リテ満足セラルヘキモノナルヲ以テ強制執行カ此時ニ於テ終了シ又債権者ハ取立命令

ニ基キ取立ヲ爲シタルニ因リテ満足スヘキモノナルヲ以テ強制執行カ此取立ヲ爲シタル時ニ於テ終了ス「ガウブ」氏カ取立命令ノ送達ニ因リ強制執行ハ終了スルモノタリ唯此場合ニ於テハ第三債務者ニ對スル債權ノ取立手續カ債務者ニ對スル強制執行以外ニ於テ存スルノミト言ヘル論旨ハ多數ノ學者ノ排斥スル所ニシテ予輩亦之ヲ賛セス(ハ)受訴裁判所カ執行機關ナルトキハ民事訴訟法第七百三十三條ノ場合ニ於テハ授權決定ノ確定ニ因リテ又民事訴訟法第七百三十五條ノ場合ニ於テハ命シタル執行處分ノ實行ニ因リテ強制執行カ終了ス而シテ民事訴訟法第五百五十條第一號ニ依レル裁判ニ基キ事實上強制執行ヲ取消シタルトキハ茲ニ強制執行ノ終了ヲ來スハ當然ナリ但債權者カ他ノ財產ヲ差押フルコトヲ得ルコトハ強制執行終了ノ妨ト爲ラス是レ蓋シ一ノ新ナル執行ヲ開始スルモノト爲ルニ過キサレハナリ

強制執行終了ノ時期ハ其開始ノ時期ト同シク民事訴訟法上之ヲ確知スルコトヲ必要トス何トナレハ債務者及ヒ第三者ノ異議ノ訴ノ能否強制執行ノ方法ニ關スル異議ノ能否ニ重大ナル關係アレハナリ

第一章 通則

第一節 執達吏ノ權限

執達吏ハ強制執行ニ關スル職務ヲ施行スルニ當リテハ左ノ權限ニ關スル法規アルコトヲ注意セサルヘカラズ

- (一) 強制権 獨逸ノ大審ガウブ氏ノ解スル所ニ依レハ執達吏ハ可成の執行ヲ迅速ニ實行シ債務者ノ爲メニ無益ノ費用ノ生セサルコトニ注意セサルヘカラス是ヲ以テ執達吏ハ執行ノ目的ニ危害ナク且無益ノ費用ヲ要セサル限度ニ於テ債權者及ヒ債務者ノ希望ヲ貫徹セシムルコトニ努メナルヘカラス故ニ法律ハ獨逸民事訴訟法第六百七十八條我民事訴訟法第五三六條ニ規定セル例外ヲ以テ前示ノ明白ナル原則ノ適用ヲ職務規則ニ委任シタリ執達吏職務施行細則第五六條ウルランベルヒ執達吏職務施行細則第五四條參考該則ニ從(ハ)執達吏ハ執行ニ著手スル以前ニ債務者若クハ其家族ニ出頭ノ目的ヲ通知シ且債務者ニ任意ノ履行ヲ求メサルヘカラスト此法理的説明ハ強制執行ノ性質上當然ノ原

則ヲ説明シタルモノニシテ又我國法ノ解釋ニ充ツルニ足ル故ニ強制權即チ搜索權及ヒ威力使用權ハ重大ノ例外ト謂ハサルベカラス第五三六條第一項……執行ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ……憲法第二五條執達吏ハ執行ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ債務者ノ住居倉庫及ヒ籠匣ヲ搜索スルノ權能ヲ有ス第五三六條第一項獨逸舊民事訴訟法第六七八條第一項第二項同新民事訴訟法第七五八條住居トハ住所ナル觀念ニ關係ナク債務者カ事實上居所トシテ一時的タル繼續的タルトヲ問ハス利用スル場所タリ故ニ債務者カ起臥スル權利アリテ債務者自身又ハ其物件カ現在スル場所ハ行政官廳ニ届出ヲ爲シ了ルト否トニ拘ハラス債務者ノ住所ト謂フヘシ是ヲ以テ家屋ハ勿論庭園其他ノ附屬物ハ住居ニ包含セラレ又家屋主又ハ店主ハ貸借人又ハ旅客ニ貸與シタル居室ニ於テ其之ニ對スル執行ノ爲メニ執達吏ノ搜索ヲ妨害スルノ權能ナシ倉庫トハ物ノ貯藏ノ爲メニ使用シ且債務者ノ監守スル空間ナリ木造又ハ土造ノ外包アルト否トハ倉庫ノ意義ニ關係ナシ故ニ通俗ノ物置ト同義ナリト爲スヲ正當ノ見解ト認ム籠匣トハ住居又ハ倉庫内ニ於テ債務者ノ資產ヲ貯藏スルカ爲メニ使

用スル有體動產ナリ故ニ金屬製又ハ木造ノ函類ノミナラス衣類袖袋其地身體ニ附著スルモノヲモ包含ス是ヲ以テ執達吏ハ債務者カ著用セル衣服等ニ就キ身體的搜索ヲ爲スノ權アリ債務者ノ住居又ハ倉庫ノ扉及ヒ籠匣カ閉鎖シテリタルトキハ執達吏ハ搜索實行ノ方法トシテ之ヲ開クノ權ヲ有ス而シテ其之ヲ開ク方法ニ關シテハ法律上別ニ文明ナシ然レトモ執達吏ハ執行ニ際シ可成的執行費用ヲ節略スヘキ職責ヲ有スルコトハ前述ノ如キヲ以テ不必要ノ費用損害等ヲ生セサル方法ヲ以テ之ヲ開クヘシ例ヘハ相當ノ職工ヲ之カ爲メニ雇フカ如キ是ナリ執達吏ハ債務者ノ住居倉庫及ヒ籠匣ニ非スンハ搜索ヲ爲スノ權ナシ(第五三六條……債務者ノ……)然レトモ債務者ト同住シ又ハ倉庫及ヒ籠匣ヲ共同使用スル第三者ハ搜索ヲ拒ムノ權ナカルヘン執達吏ハ抵抗ヲ受ケタル場合ニ於テ自ラ威力ヲ用ヒ且之カ爲メニ警察上ノ援助ヲ求ムルヌ權アリ又必要ノ場合ニハ執行裁判所ノ其助ヲ以テ兵力ヲ要求スルノ權アリ(第五三六條第二項獨逸舊民事訴訟法第六七八條等三項同新民事訴訟法第七五八條第三項)抵抗即チ官吏タル執達吏ノ職務行使ノ妨害ハ執達吏ニ

對スル暴行脅迫ニ因リ成立ス(刑法第一三九條此抵抗アル場合ニ於テハ法律ハ正當ニ職務執行ノ職務ヲ全ウスルノ必要上執達吏ハ自ラ威力ヲ用フルコト即チ抵抗ヲ排斥スルニ足ル腕力ヲ用フルヲ許シタリ但身體ヲ自由拘束即チ監禁ノ如キハ執達吏ノ威力使用權ノ作用トシテ法律ノ許ヌ所ニ非ナルヘシ是レ蓋シ適當ノ限度ヲ超越スレハナリ執達吏ハ自力ノミヲ以テ其職務上ノ目的ヲ全ウスルコト能ハサルトキハ他力即チ警察權ノ執行機關ノ援助ヲ求メ又兵力ノ援助ヲ求ムルコトヲ得而シテ兵力ノ援助要求ニ付キ執行、裁判所、ノ媒介ヲ必要ト爲シタルハ事重大ニ涉レハナリ第五四三條第二項、第五九五條第六二一條第六二二條第六三七條、第六四一條、第七五〇條執達吏ハ債務者ナルト否トヲ問ハス抵抗ヲ爲ス者ニ對シテ威力ヲ行使スルコトヲ得然レトモ第三者カ債務者ニ對スル執行ノ妨害ヲ爲シタルニ非シテ自己ノ財產上ニ於ケル強制執行ノ擴張ヲ不當トシテ抗拒シタルカ如キ場合ニハ執達吏ハ其第三者ニ對シ威力ヲ行使スルコト能ハサルヘシ第五二八條獨逸民事訴訟法第六七一條抵抗者ハ刑法第百三十九條ノ制裁ヲ受クルヤ言ヲ俟タス)

證

○裏書年月日遡記ノ效果
手形ノ裏書ヲ爲スニ際リ其裏書ノ年月日ヲ遡ラシメテ記載シタルトキハ其裏書ハ全然無効ナリヤ否ヤニ付キ東京控訴院ハ此場合ニ於テモ仍ホ被裏書人ハ手形上ノ權利ヲ有スト認メテ不當利得ノ請求商法第四四四條ヲ不當ナリト判決シタルヲ大審院ハ之ヲ破棄シテ曰ク約束手形ノ普通裏書ハ約束手形其體本又ハ補箋ニ裏書人ノ氏名又ハ商號及ヒ裏書ノ年月日ヲ記載スヘキハ商法第四百五十七條ノ規定スル所ナリ而シテ之ニ其年月日ヲ記載セシムル所以ノモノハ裏書當時裏書人ニ於テ裏書ヲ爲スノ能力ヲ有スルヤ否ヲ明ニシ以テ支拂能力ナキ者カ破産ニ瀕シ裏書ノ年月日ヲ遡記シ詐欺ヲ爲スコトヲ防止セントスルニ在リテ其記載ハ裏書ノ一要件ナレハ之ニ記載ノ年月日カ裏書ノ年月日ニ適合セサルトキハ適法ニ其年月日ノ記載アルモノト云フヲ得ス故ニ若シ裏書人ニ於テ裏書ノ年月日ヲ遡記センカ其記載ハ無效ニシテ從テ裏書行為モ亦無効ニ屬スルモノトス今本件係争手形ハ裏書ノ年

月日ヲ遡記シタルモノナルハ當事者間ニ争ナキ所ナレ、被裏書人タル上告人ハ同手形ニ付キ毫モ手形上ノ権利ヲ取得セザガト以テ振出人ニ對シ手形上ノ権利ヲ行使シ得ナルヤ明ナリ既ニ裏書ニシテ無效ナル以上ハ被上告人カ裏書ニ因リテ得タル利益ハ法律上ノ原因ナクシテ變更シタル次第ナルニト
(大審院明治三十五年(大正四年)四百五號記書證渡金請)
○川名講師ノ留學費眞本校講師法學士川名兼四郎氏ハ民法研究ノ爲メ滿三箇年間獨國留學ヲ命セラレ本月二十一日出發渡歐ノ途ニ上ラレタリ
○編入試験問題東京去ル二月十二日ヨリ本校ニ執行シタル三年級編入試験ノ問題左ノ如シ
 民法債權 第一章 (荒井學士)
 不可分債務連坐債務及保證債務ノ意義ヲ考証シ其差異ヲ舉ケト
 民法債權第三章(第一節乃至第五章) (川名學士)
 一 民法第七百三條ニ所謂法律上ノ原因トハ如何ナコトナム(佐藤文彦附)
 二 甲者乙丙兩人二代領主財産ニ酒一升ヲ却セリ乙者五錢ヲ提供シテ酒五合ヲ要求セリ甲者ハ之ヲ拒絶スルコトヲ得ルナ
 民法債權至同一(第二節) (梅 博士)

一 買戻ノ特約ノ性質及ヒ條件ヲ論セヨ。

二 使用借貸賃貸借賃物サ論セヨ。

三 甲カ乙ヨリ金若干ヲ借入ルニ付キ丙ニ保證人公ランコトヲ依頼シ丙之ヲ承諾シタリセん知ラス甲丙間ニ委任契約成立スルヤ否ヤ理由ヲ附シテ答へ

一 商法適用ノ範囲ヲ論スヘン

二 商業登記ノ效力ヲ論スヘン

三 甲乙丙三人ニ代領主財産ニ酒一升ヲ却セリ乙者五錢ヲ提供シテ酒五合ヲ要求セリ甲者ハ之ヲ拒絶スルコトヲ得ルナ

商 法 總 則 (松本學士)

一 商法適用ノ範囲ヲ論スヘン

二 交互計算トハソ

三 商法商行為第十九章 (志田博士)

一 保険料ノ法律上及ヒ經濟上ノ性質ヲ論セヨ

二 保險法ニ於ケル生命保險契約の性質如何

三 何者カ保險會社ノ財產上ニ優先權ナ有スヘキ理由アリマ

刑 法 各 論 (古賀學士)

一 貨幣偽造ノ器械ヲ携拂シタル者ヲ罰スルノ理由如何

二 爲記・爲鑑定ノ區別如何

一 被告ノ住所ヲ以テ被鑑取扱书籍ト爲シタル理由如何

二 訟訟代理人ト輔佐人ト區別如何

民事訴訟法第一編

(仁井田博士)

一 認諾ト自白トノ區別ヲ問フ

二 受命判事若クハ受託事カ經辦ノ期日及ヒ也所ヲ當事者ニ通知セシムケ爲シタル證據調ハ有效ナルヤ

一 私訴ノ目的々損害・賠償・返還トハ何ゾ

二 領名ノミナ記載シ犯題事實ヲ記載セサセ等請求書ヲ後日犯題事實ヲ認載シタル書面ヲ證據判事ニ送致スル手續ニ依テ
違反シ以テ有効ノ起訴ト爲スコトヲ得ヘキヤ
一 財政・財政學・經濟・明ニスヘシ

二 重稅制及稅制ノ利害ト論スヘシ

民事訴訟法第二編

(岩田學士)

一 被告ノ自己ノ債務ヲ保全スル爲メ丙ニ對シ乙ノ裏的解除ヲ行使シニ基キナ精求シタル場合ニ於テ被

告丙ハ原告甲ニ對シテ(一)甲ハ自己ノ名義ナリ又該起シタルカ被其訴ハ不適法ナリ(二)契約解除通知ハ執達更ニ丙ノ
同居ノ親族ニ對其種知書ヲ交付シタル止マルヲ以テ無効ナリ主張原告ニ對シ敗訴ノ言渡アランコトナ申立アヌリ

知ラツ右訴ハ不適法ナリヤ否ヤ又問フ右第二ノ事實ニシテ立證セラレバシトセハ如何ニ判決スヘキヤ(假文機帶ナズス)

特別法

第一回
行

- 市町村長
- 警察署
- 戶籍課
- 役場
- 人事評議会議長
- 本部長官
- 監理官(監理員)
- 司書官(司書員)
- 公設人選別(公選議員)

一 寶帶爲道ノ證據ヲ獲得シタル者ヲ罰スルノ理由如何

二 館主・爲鑑定ノ區別如何

一 被告ノ住所ヲ以テ証據取扱籍を定ム基礎ト爲シタル理由如何

二 訟訴代理人ト輔佐人トノ區別如何

民事訴訟法第一編

(仁井田博士)

一 誓語ト自白ト區別如何

二 受命判事若クハ受任したる事カ詮捕調ノ期日及ニ當所ナ當事者ニ通知セスシテ爲シタル詮捕調ハ有效ナルヤ

民事訴訟法第二編

(岩田學士)

一 私訴ノ目的々指實ノ賠償、賠物返還ト何ゾ

二 告名ノミナ記載、其犯事實ヲ記載セサシテ後署名書求ナ後日犯罪事實ヲ記載シタル書面ヲ陳審判事ニ送致スル手續ニ依ア
達成シ以テ有効ノ詮訴ト爲スコトヲ得ヘキヤ

財政學 (岡島學士)

一 財政及財政學 (堀金ナ明ニスヘシ)

二 亂税制及税制 (利害論スヘシ)

法律 (吉孫子學士)

甲者アリ其債務者乙ニ對スル自己ノ債権ヲ保全シタル爲メ丙ニ對シ乙ニ對スル自己ノ債権ヲ保全シタル場合ニ於テ被
告丙ハ原告甲ニ對シ乙ニ甲ハ自己ノ名義、以テ訴ハ不適法ナリ(乙)契約解除ノ通知ハ執達更々丙ノ
固居思想ヲ對シ其通知書ヲ交付シタル止マリテ以テ無効ナリト張原告三對シ敗訴ノ言渡アランコトナ申立アナリ
却ラ、右訴ハ不適法ナリヤ否ヤ又問ノ右第ニノ事實ニシテ立證セラレタリトセハ如何ニ判決スヘキヤ(證文憑證ナ許ス)

特別法講義錄

第一號
四月一日
發行

- 府縣制 法學士 松浦 錄次郎
- 市町村制 法學士 棚浦 鎮次郎
- 戶籍法 法學士 鳥田 鏡吉
- 供託法 法學士 塚田 達二郎
- 人事訴訟手續法 法學士 楠間 義正
- 尚ホ本講義錄ニハ○部制(横浦學士)○特許、意匠、商標法(杉本學士)○非訟事件手續法(横田學
士)○不動產登記法(鈴木學士)○競賣法(吾孫子學士)○租稅法(若櫻學士)○著作權法(水野博
士)○公證人規則(松岡學士)○執達吏規則(仁井田博士)ヲ掲載ス○毎月一回發行○月謝金十五
錢

